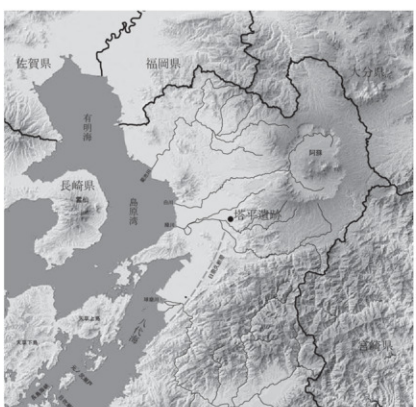
熊本県文化財調査報告第310集

塔平遺跡3



2015.3

熊本県教育委員会

塔平遺跡遠景（東から）

序　文

熊本県教育委員会では，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所による九州横断道延岡線建設事業に伴い，予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

本書は，熊本県上益城郡益城町に所在する塔平遺跡２区の発掘調査報告書です。

塔平遺跡は縄文時代，弥生時代，古代の遺構・遺物が検出された複合遺跡で，同一丘陵の南西方向約１㎞の位置には，弥生時代後期の環濠集落「二子塚遺跡」が所在します。この二子塚遺跡は，中期後半の甕棺墓群が当該地に集落を伴わず出現し，後期前半の空白期を挟み，後期中葉に集落が形成され，その後，後期後半には環濠を廻らせる集落へと変遷しています。

当該遺跡から検出された遺構・遺物は，近接する位置に所在する二子塚遺跡との関係性について検討する貴重な資料を提供しました。

本書が学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助としてご活用いただけると幸いです。

最後に，埋蔵文化財発掘調査にご理解，ご協力をいただいた地元の皆様をはじめ，益城町教育委員会，事業主体である国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所に対し，心より感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月 31 日

熊本県教育長　田　崎　龍　一

例　言

1　本書は，熊本県上益城郡益城町大字小池字塔平に所在する塔平遺跡２区の発掘調査報告書である。
2　調査は，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から依頼を受けて，九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う記録保存のための発掘調査として，平成 24 年度に熊本県教育委員会が実施した。
3　現地での発掘調査は，第Ⅰ章第１節２に記した調査担当者が担当し，現地での遺構実測及び写真撮影も調査担当者で行った。
4　現地での４級基準点及びメッシュ杭設置業務は㈱十八測量に委託した。
5　遺構の実測は調査担当者が担当し，一部を㈱イビソクに委託した。
6　遺物の整理は，熊本県文化財資料室で行った。
7　遺物の実測及び製図は，戸田紀美子，藤本香織が行い，石器の一部を㈱九州文化財研究所に，土器の一部を㈱埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
8　遺構の製図は，㈱イビソクに委託した。
9　遺物の写真撮影は，村田百合子，蓮池千恵，松本智子が行った。
10　本書の執筆・編集は村崎が担当し，戸田，藤本が補助した。
11　本書に掲載した資料は，熊本県文化財資料室で保管している。

凡　例

1　本書で使用している方位は，座標軸を基準とした北を示している。
2　報告書に掲載した実測図の縮尺は，集石は S=1/30，竪穴建物跡は S=1/60，カマドは S=1/30・1/40，土坑は S=1/30・1/50 である。
3　土層及び土器類の色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版　標準土色帖」（財団法人日本色彩研究所；２００４）に準拠した。
4　写真の縮尺は任意である。
5　遺物の実測は一部を除き原則として原寸大で行い，報告書に掲載した実測図の縮尺は挿図ごとにスケールを示した。
6　遺構の種別については，一部を除いて発掘調査時に判断し略号を付した。
　ＳＩ：竪穴建物跡　　ＳＫ：土坑　　ＳＹ：集石

本 文 目 次

口絵
序文
例言・凡例
第Ⅰ章　調査の概要 …… 15
第１節　調査に至る経緯及び調査の組織 …… 15
１　調査に至る経緯 …… 15
２　調査の組織 …… 15
第２節　調査の方法と経過 …… 16
１　予備調査 …… 16
２　本調査 …… 21
３　整理作業 …… 24
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 25
第１節　遺跡の環境 …… 25
１　地理的環境 …… 25
２　歴史的環境 …… 25
第２節　遺跡の層位と包含層 …… 31
第Ⅲ章　調査の成果 …… 33
第１節　縄文時代の遺構と遺物 …… 33
１　集石 …… 33
２　土坑 …… 33
第２節　古代以降の遺構と遺物 …… 33
１　竪穴建物跡 …… 33
２　土坑 …… 46
第Ⅳ章　総括 …… 69
第１節　1,3～5,6区の調査成果 …… 69
１　旧石器時代 …… 69
２　縄文時代 …… 70
３　弥生時代 …… 74
４　古代 …… 75
参考文献
写真図版
抄録

挿図目次

第1図　塔平遺跡試掘・確認調査位置図(1/3000)及び トレンチ土層断面図(1/60)
第2図　塔平遺跡と周辺の遺跡(1/50000)
第3図　基本土層柱状図
第4図　塔平遺跡2区 遺構配置図(1/200)
第5図　塔平遺跡2区 土層断面図(1/60)
第6図　遺構配置図(1/200)－縄文時代－
第7図　SY11遺構(1/30)・出土遺物実測図(1/3)
第8図　SY12遺構(1/30)・出土遺物実測図(1/3)
第9図　SK112遺構実測図(1/30)
第10図　SK110・SK111遺構実測図(1/30)
第11図　SK110出土遺物実測図(1/3)
第12図　SK113・SK114遺構実測図(1/30)
第13図　SK117遺構(1/30)・出土遺物実測図(1/3)
第14図　遺構配置図(1/200)－古代以降－
第15図　SI123遺構実測図(1/60)
第16図　SI123カマド(1/40)・出土遺物実測図(1/3)
第17図　SI124遺構(1/60)・カマド実測図(1/30)
第18図　SI128遺構実測図(1/60)
第19図　SI128カマド(1/40)・出土遺物実測図(1/3)
第20図　SI135遺構実測図(1/60)
第21図　SI135カマド(1/40)・出土遺物実測図(1/3)
第22図　SI137遺構実測図(1/60)
第23図　SI137カマド(1/40)・出土遺物実測図(1/3)
第24図　SK78・79・80遺構実測図(1/50)
第25図　SK81～88遺構実測図(1/50)
第26図　SK89・90・91遺構実測図(1/50)
第27図　SK92 ～ 97・99・101・103・104遺構実測図(1/50)
第28図　SK102・105～109遺構実測図(1/50)
第29図　SK100遺構(1/50)・出土遺物実測図(1/3)
第30図　3層出土遺物実測図
第31図　調査区出土遺物実測図 －1－
第32図　調査区出土遺物実測図 －2－
第33図　調査区出土遺物実測図 －3－
第34図　調査区出土遺物実測図 －4－
第35図　調査区出土遺物実測図 －5－
第36図　調査区出土遺物実測図 －6－
第37図　調査区出土遺物実測図 －7－
第38図　調査区出土遺物実測図 －8－
第39図　調査区出土遺物実測図 －9－
第40図　調査区出土遺物実測図 －10－
第41図　1,3～5,6区の旧石器時代の遺物
第42図　1～5区遺構配置図(1/1200)縄文時代－早期－
第43図　1～5区遺構配置図(1/1200)－縄文時代－
第44図　1～5区遺構配置図(1/1200)－弥生時代－
第45図　1～5区遺構配置図(1/1200)－古代以降－

表目次

第1表　九州横断自動車道延岡線建設事業に伴う試掘・確認調査結果トレンチ一覧表
第2表　予備調査の記録
第3表　塔平遺跡周辺遺跡一覧表
第4表　土器観察表
第5表　土器観察表
第6表　土器観察表
第7表　石器観察表

写真図版目次

塔平遺跡遠景（東から）

図版1 SY11 完掘状況 南東から
SY11 土層断面 東から
SY12 完掘状況 北西から
SY12 土層断面 北から
SK110 完掘状況 東から
SK110 土層断面 東から
SK111 完掘状況 東から
SK111 焼土範囲 東から
図版2 SK111 土層断面 北から
SK112 完掘状況 北から
SK113 完掘状況 北西から
SK114 完掘状況 北東から
SK117 焼土範囲 東から
SK117 完掘状況及び土層断面 東から
SI123 カマド残存状況 東から
SI123 硬化面範囲検出状況 東から
図版3 SI124 完掘状況 北東から
SI124 カマド残存状況 東から
SI124 硬化面範囲検出状況 東から
SI128 カマド残存状況 東から
SI128 完掘状況 東から
SI128 粘土範囲 東から
SI135 カマド残存状況 東から
SI135 完掘状況 東から
図版4 SI135 粘土・焼土検出状況 東から
SI137 カマド残存状況 東から
SI137 完掘状況 東から
SI137 カマド残存状況及び硬化面範囲 東から
SK78 完掘状況 南東から
SK78 土層断面 北から
SK79 完掘状況 北から
SK79 土層断面 北から
図版5 SK80 完掘状況 北から
SK80 土層断面 西から
SK81 完掘状況 西から
SK81 土層断面 東から
SK82 完掘状況 西から
SK82 土層断面 東から
SK83 土層断面 北から
SK84 完掘状況 西から
図版6 SK84 土層断面 南から
SK86 完掘状況 西から
SK86 土層断面 南から
SK87 完掘状況 東から
SK87 土層断面 南から
SK88 完掘状況 南東から
SK88 土層断面 北から
SK89 完掘状況 西から
図版7 SK89 土層断面 東から
SK90 完掘状況 東から
SK90 土層断面 東から
SK91 完掘状況 東から
SK91 土層断面 東から
SK92 完掘状況 西から
SK92 土層断面 東から
SK93 完掘状況 北から
図版8 SK94 完掘状況 北から
SK94 土層断面 北から
SK95 完掘状況 南東から
SK95 土層断面 南から
SK96 完掘状況 東から
SK96 土層断面 東から
SK97 完掘状況 西から
SK97 土層断面 西から
図版9 SK98 完掘状況 東から
SK98 土層断面 北東から
SK99 完掘状況 北東から
SK99 土層断面 東から
SK100 完掘状況 東から
SK100 土層断面 西から
SK101 土層断面 東から
SK102 完掘状況 北東から

図版 10　SK102　土層断面　東から
SK103　土層断面　東から
SK104　土層断面　東から
SK105　土層断面　東から
SK106　土層断面　南東から
SK107　土層断面　南から
SK108　土層断面　西から
SK109　土層断面　南から
図版 11　SY11・SY12 出土遺物
SK110・SK117 出土遺物
SI123 出土遺物
SI128・SI135 カマド出土遺物
SI137 カマド出土遺物
SK100 出土遺物
図版 12　土師器（杯・椀）
土師器（椀）
土師器（小型甕）
土師器（壺）
土師器（脚）
土師器（甕）
須恵器（蓋・甕）
図版 13　縄文早期土器 - 1 -
縄文早期土器 - 2 -
図版 14　縄文土器　浅鉢 - 1 -
縄文土器　浅鉢 - 2 -
図版 15　縄文土器　深鉢 - 1 -
縄文土器　深鉢 - 2 -
図版 16　轟式土器
縄文土器　- 底部 -
図版 17　石鏃
二次加工ある剥片
石核
紡錘車
磨製石斧
打製石斧
磨・敲石
砥石

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯及び調査の組織

１　調査に至る経緯

熊本県教育委員会は，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う「埋蔵文化財の予備調査について（依頼）」の提出を受け，平成 19 年 11 月 5 日～ 9 日，29 日，12 月 12 日～ 17 日及び平成 20 年 11 月 28 日に塔平遺跡とその周辺で埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査によって埋蔵文化財の存在を確認した（塔平遺跡 1，3 区）ため，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて調査結果と発掘調査の必要性を通知した。

その後，九州横断自動車道延岡線建設予定地について 1 区は平成 21 年 2 月 9 日付け国九整熊工事第 86 号，3 区は平成 21 年 2 月 23 日付け国九整工事第 35 号で文化財保護法第 94 条第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」が国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から益城町教育委員会を経由して熊本県教育委員会に通知された。その後，1 区については平成 21 年 2 月 23 日付け国九整熊工事第 106 号，3 区については平成 21 年 6 月 18 日付け国九整熊工事第 36 号で「埋蔵文化財発掘調査について（依頼）」が提出されたことを受け，それぞれ平成 21 年 4 月 13 日付け教文第 128 号，平成 21 年 7 月 6 日付け教文第 966 号で文化財保護法第 99 条第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し発掘調査を実施した。この際，両調査区に隣接する 2 区については，用地交渉の遅れから予備調査ができなかったが，1 区の発掘調査成果から現況水田である当該地への遺構の広がりが確認されたため，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所と取り扱い等について協議を重ね，発掘調査を実施することとした。その後，用地交渉の完了したことから平成 24 年 4 月 13 日付けで委託契約を締結し，平成 24 年 5 月 7 日付け国九整熊工事第 11 号で「埋蔵文化財発掘調査について（依頼）」を受け，平成 24 年 9 月 28 日付け教文第 1454 号で文化財保護法第 99 条第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し発掘調査を実施した。発掘調査は，平成 24 年 11 月 6 日から平成 24 年 12 月 28 日の期間で実施した。

２　調査の組織

【平成 19 年度・予備調査】

発掘調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　梶野英二（文化課長），江本直（課長補佐）
調査総括　高木正文（課長補佐文化財調査第 1 係担当）
調査事務　高宮優美（主幹兼総務係長），
調査担当　坂口圭太郎（参事），横田光智，遠山宏（嘱託）

【平成 24 年度・発掘調査】

発掘調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　小田信也（文化課長），西住欣一郎（課長補佐）
調査総括　村﨑孝宏（文化財調査第 1 係長）
調査事務　中津幸三（課長補佐兼総務・助成班担当），稲木尚子（参事），天草英子（主任主事）
調査担当　村﨑孝宏（文化財調査第 1 係長），上村龍馬，水上正孝，佐藤哲朗（文化財保護主事），横田光智，福田拓也（嘱託）
調査作業員　伊津野博，紫垣昭一，成松武大，村﨑博則，浦部福次，岡本敬裕，笹木薫，田上文男，松下義章，三宅幸生，井手美幸，奥村龍則，河原良江，坂田正良，土島安臣，橋本綾子，米光司朗（順不動）

【平成 25 年度・整理作業】

発掘調査主体　熊本県教育委員会
調査責任者　小田信也（文化課長），西住欣一郎（課長補佐）
調査総括　村﨑孝宏（主幹兼文化財調査第 1 係長）
調査事務　廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長），

	有馬綾子（参事），天草英子（主任主事）
整理担当	村﨑孝宏（主幹兼文化財調査第１係長），戸田紀美子（嘱託），藤本香織（臨時）
整理作業員	木村ゆり子，増村富貴子，樋脇逸子，鍋田浩子，平井直美，森下こずえ（臨時）

【平成 26 年度・調査報告書作成】

発掘調査主体	熊本県教育委員会
調査責任者	手島伸介（文化課長），西住欣一郎（課長補佐）
調査総括	村﨑孝宏（主幹兼文化財調査第１係長）
調査事務	廣石啓哉（主幹兼総務・文化係長），有馬綾子（参事），天草英子（主任主事）
整理担当	村﨑孝宏（主幹兼文化財調査第１係長），戸田紀美子（嘱託），藤本香織（臨時）
整理作業員	木村ゆり子，樋脇逸子，鍋田浩子（臨時）

第２節　調査の方法と経過

１　予備調査［平成 19 年度］

(1) 塔平遺跡周辺での埋蔵文化財の試掘・確認調査

九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査は，平成 19 年 11 月５日～９日，29 日，12 月 12 日～ 17 日及び平成 20 年 11 月 28 日に塔平遺跡とその周辺で埋蔵文化財の試掘・確認調査を実施し，塔平遺跡１，３区において埋蔵文化財の存在を確認したので，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて調査結果と発掘調査の必要性について通知を行った。

両調査区に隣接する２区については，用地交渉の遅れから予備調査の実施ができなかったが，１区の発掘調査成果から現況水田である当該地への遺構の広がりが確認されたため，国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所と埋蔵文化財の取り扱い等について協議を重ね，発掘調査を実施することとした。

(2)　調査結果

トレンチ１～４（１区），９，10（４区），28，29，32（６区），33，47～49（５区），50，51，53，55，58（６区）において遺構または遺物等の埋蔵文化財の残存を確認した。その他のトレンチでは，遺構または遺物等の埋蔵文化財の残存を確認しなかった。

これらの結果，埋蔵文化財の所在が確認された範囲については文化財保護法の趣旨を尊重のうえ，計画変更によっても現状での保護ができない場合は，熊本県教育庁文化課との協議が必要になる。止むを得ず計画どおりに工事を行う場合は，工事に先立ち文化財保護法第 94 条第１項に基づく通知並びに発掘調査の実施が必要である。

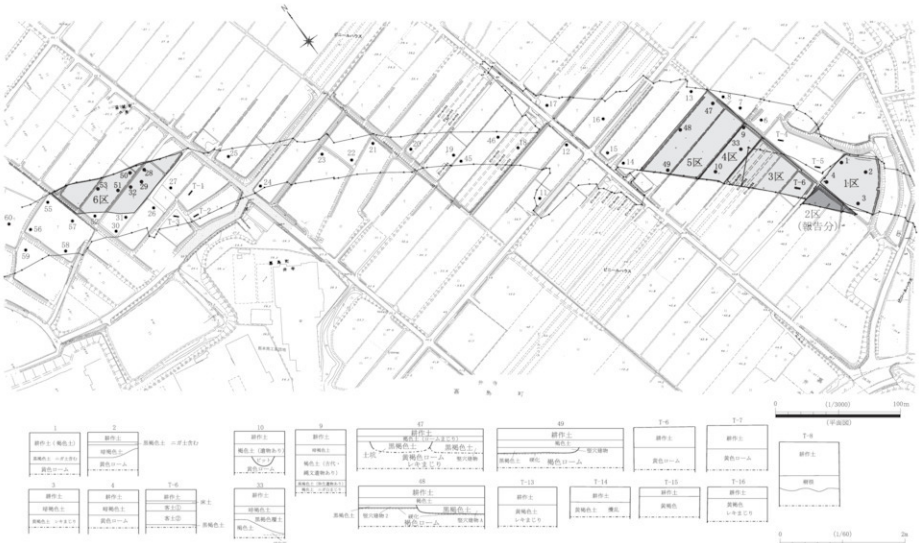
(3)　基本土層と埋蔵文化財の確認状況

調査地の基本土層は第３図に示したとおりである。埋蔵文化財の確認状況は，第１表のとおりである。

Ⅰ層　表土（耕作土）

Ⅱ層　圃場整備の際の整地層

Ⅲ層　黒色土層　黒ボク，古代の遺物を多く含む。



第 1 図　塔平遺跡試掘・確認調査位置図 (1/3000) 及びトレンチ土層断面図 (1/60)

第１表　九州横断自動車道延岡線建設事業に伴う試掘・確認調査結果トレンチ一覧表

予備調査　実施日　H19.11.5 ～ 29

トレンチ	規模（幅×長さ×深度）単位：cm	遺物・遺構の有無	遺物・遺構の確認面までの深さ (cm)	遺物・遺構の内容		遺跡名調査区
				遺物	遺構	
1	９０×３００×７０	○	△３０㎝	縄文土器		塔平遺跡１区
2	９０×３００×７０	○	△２０㎝	縄文土器	竪穴建物跡	
3	９０×３００×７０	○	△２０㎝	縄文土器		
4	９０×３００×７０	○	△２０㎝	縄文土器	柱穴	
5	９０×３００×３０	×				
6	９０×３００×３０	×				
7	９０×３００×４０	×				
8	９０×３００×８０	×				
9	９０×３００×１００	○	△４０㎝	弥生土器 土師器		塔平遺跡４区
10	９０×３００×５０	○	△４０㎝	弥生土器 土師器	柱穴	
11	９０×３００×３０	×				
12	９０×３００×３０	×				
13	９０×３００×３０	×				
14	９０×３００×３０	×				
15	９０×３００×３０	×				
16	９０×３００×２０	×				
17	９０×３００×２０	×				
18	９０×３００×３０	×				
19	９０×３００×３０	×				
20	９０×３００×３０	×				
21	９０×３００×２０	×				
22	９０×３００×３０	×				
23	９０×３００×３０	×				
24	９０×３００×３０	×				
25	９０×３００×７０	×				
26	９０×３００×３０	×				
27	９０×３００×３０	×				
28	９０×３００×７０	○	△５０㎝	土師器		塔平遺跡６区
29	９０×３００×７０	○	△６０㎝	土師器	柱穴	
30	９０×３００×３０	×				
31	９０×３００×３０	×				
32	９０×３００×６０	○	△６０㎝	土師器	溝，柱穴	塔平遺跡６区
33	９０×３００×７０	○	△５０㎝	土師器	溝	塔平遺跡４区

トレンチ	規模（幅×長さ×深度）単位：cm	遺物・遺構の有無	遺物・遺構の確認面までの深さ(cm)	遺物・遺構の内容		遺跡名調査区
				遺物	遺構	
34	９０×３００×３０	×				
35	９０×３００×３０	×				
36	９０×３００×３０	×				
37	９０×３００×１０	×				
38	９０×３００×６０	×				
39	９０×３００×４０	×				
40	９０×３００×３０	×				
41	９０×３００×４０	×				
42	９０×３００×２０	×				
43	９０×３００×２０	×				
44	９０×３００×５０	×				
45	９０×３００×２０	×				
46	９０×３００×３０	×				
47	９０×３００×４０	○	△３０㎝	土師器	竪穴建物跡 土坑	塔平遺跡５区
48	９０×３００×５０	○	△４０㎝	土師器	竪穴建物跡	
49	９０×３００×６０	○	△４０㎝	土師器	竪穴建物跡	
50	９０×３００×５０	○	△４０㎝	土師器	竪穴建物跡 柱穴	塔平遺跡６区
51	９０×３００×６０	○	△４０㎝	土師器	溝	
52	９０×３００×１４０	×				
53	９０×３００×１２０	○	△１２０㎝	土師器	柱穴	塔平遺跡６区
54	９０×３００×５０	×				
55	９０×３００×４０	○	△２０㎝	土師器	土坑，柱穴	塔平遺跡６区
56	９０×３００×３０	×				
57	９０×３００×３０	×				
58	９０×３００×７０	○	△６０㎝	土師器	柱穴	塔平遺跡６区
59	９０×３００×２０	×				
60	９０×３００×６０	×				

予備調査　実施日　H20.11.28

Ｔ１	９０×３００×８５	×				
Ｔ２	９０×３００×１１０	×				
Ｔ３	９０×３００×５５	×				
Ｔ４	９０×３００×５５	×				
Ｔ５	９０×３００×４０	×				
Ｔ６	９０×３００×６０	○	△５５㎝	土師器		塔平遺跡３区

第２表　予備調査の記録

年度	No.	依頼	調査内容	調査場所	調査期間	担当者	文化財の有無	通知	備考
Ｈ１９	5	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	試掘	山都町上寺地内（千滝川・大野川）	H19.4.23-24	参事　坂口圭太郎	×	H19.5.18付け教文第479号	
	9	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	試掘	上益城郡益城町大字小池鶴山谷	H19.7.5	参事　坂口圭太郎 文化財保護主事水上正孝	×	H19.7.12付け教文第1028号	
				上益城郡御船町大字田代玉来			×		
	18	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	踏査	上益城郡山都町地内（２１箇所）	H19.7.18	参事　坂口圭太郎	△	H19.11.6付け教文第1910号	
	21	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	試掘	上益城郡御船町高木	H19.12.12-14、17	参事　坂口圭太郎 文化財保護主事水上正孝 嘱託　遠山　宏	△	H20.1.16付け教文第2390号	＊山下遺跡
	23	H19.10.16付け九熊高第217号	確認	上益城郡益城町大字小池	H19.11.5-9、11.29	参事　坂口圭太郎 文化財保護主事水上正孝 嘱託　遠山　宏、横田光智	△	H20.1.22付け教文第1729号	＊塔平遺跡１区、４，５区
Ｈ２０	1	H18.5.18付け国九整熊二調第11号	踏査	上益城郡御船町	H20.5.14	参事　宮崎敬士 主任学芸員 坂井田端志郎	×	H20.5.23付け教文第512号	
	2	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	確認	上益城郡御船町高木	H20.2.13-14	参事　坂口圭太郎 文化財保護主事水上正孝 嘱託　遠山　宏	×	H20.6.2付け教文第600号	（＊山下遺跡）
	3	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	確認	上益城郡御船町北田代	H20.2.20-22、5.1-2	参事　坂口圭太郎 文化財保護主事水上正孝 嘱託　遠山　宏	×	H20.6.2付け教文第603号	（＊北田代城跡）
	14	H19.2.28付け国九整辺調設第59号	確認	上益城郡御船町保手野	H20.12.17	参事　宮崎敬士	×	H21.1.15付け教文第2462号	＊保手野遺跡
	15	H20.11.10付け九熊高第697号	確認	上益城郡益城町大字小池、島田	H20.11.28	主任学芸員 坂井田端志郎	△	H21.2.9付け教文第2672号	＊塔平遺跡

Ⅳ層　暗褐色土層　漸移層
Ⅴ層　褐色土層　アカホヤ火山灰二次堆積層。
　粘性がありややしまる。
　層厚は 30 ～ 40cmを測る。
Ⅵ層　黒褐色土層（10YR2/3）通 称，黒ニガ層である。粘性及びしまりともやや強い。層厚は 40 ～ 80cmを測る。
Ⅶ層　褐色土層

２　本調査［平成 24 年度］

(1) 調査の方法

重機による表土除去を行い，その清掃後，引き続いて記録保存のための実測図作成に必要な基準作りとして，光波測距機を使用してメッシュ杭設置及び４級基準点測量を行った。平面直角座標第Ⅱ系における座標値を用い，一辺５ｍの区画を設定した。調査は，遺構の検出と遺物の検出を中心に実施した。遺構は，平面形の確認を行った後に，土層観察のためのベルトを残し掘り下げた。その観察後，ベルトを取り除いて全体像を確認する。その間に作成される資料には，1/10・1/20 に縮尺して作る平面図，土層断面図，断面図などがある。遺物の検出は，上記した遺構調査の完了後に実施した。検出した遺物の取り上げは，光波測距機によりｘ，ｙ，ｚの座標を測定・記録を行った。

(2) 調査の記録

調査の経過については，以下に示したとおりである。

11.1　表土剥ぎ１日目。調査区の南側から表土を剥ぎ始める。調査区南側は，客土がやや落ち込み削平を受け，アカホヤ層が見えていた。黒ボク（３層）は，調査区中央から北側にかけて残存する。調査区東端は，植生の影響を受けフカフカしていた。表土剥ぎは調査区の 2/3 程度を終了した。

11.2　残り 1/3 の表土剥ぎを実施。圃場整備に伴う客土（2 層）直下で掘削を止める。調査区北端はバラスを敷いて道にしていたらしく，削平を受けている。縄文時代の炉穴と思われる遺構が１基検出された。

11.6　作業員を入れての作業初日。午前中は調査区及び周辺の環境整備を行った。午後から，調査区の清掃を行う。塔平遺跡３区からの遺構の広がりが予想されるが，現状では不明。調査区南側ではアカホヤがみられるが，北側半分は黒ボクが残存している。清掃時に黒ボク直上での遺構検出は困難であるので，今後，黒ボク掘削後にアカホヤ層直上での遺構検出を試みることにする。

11.7　昨日に引き続き調査区の清掃を行う。イモ穴等の撹乱や，調査区東端に圃場整備に伴う落ち込みを掘削した。撹乱の壁を清掃して黒ボク以下の土層堆積を確認し，また，併せて柱穴等の遺構も検出した。調査区内においてグリッド設定を行った。

11.8　調査区北端をギリギリまで広げて掘削する。午後からはグリッドごとに，３層（黒ボク）を掘削，遺物は縄文時代の土器・石器等が出土した。グリッドごとに遺物の出土量は異なり，遺物集中箇所には遺構が存在することが予想される。精査していないが，遺構密度は高そうである。1/100 の縮尺で，調査区全体の作業図を作成した。

11.9　昨日に引き続き３層（黒ボク）の掘削を行う。V-26，W-25，26 グリッドを集中的に掘削。W-26 グリッドは，特に遺物の出土量が多い。

11.12　引き続き３層（黒ボク）を掘削。遺物の出土量は，U，V-25 グリッドが多く，V-25 グリッドからは打製石斧２点，U-25 グリッドからは黒曜石の石核と縄文土器も多数出土した。須恵器も出土することから古代の遺構が存在する可能性も予想される。調査区北端の撹乱部分の掘削を行った。

11.15　調査区全体の清掃を行い，遺構検出を試みた。調査区の南側は５層（アカホヤ火山灰層）面であるが，部分的に３層（黒ボク）や２層が残存する箇所があり，北側でも全体的に薄く３層が残存している。そのため，現状での遺構検出は困難であるので，再度，３層（黒ボク）を掘削中である。調査区南東にやや深く３層（黒ボク）が掘削できる箇所があり，おそらく旧地形が南東へ傾斜していたものと理解される。

11.16　昨日に引き続き，グリッドごとに３層（黒ボク）の掘削を行った。午後から清掃を行い遺構検出を試みたが，西陽が強く困難であった。現段階で

は，古代の畑の畝や弥生時代の竪穴建物跡が数軒確認できた。遺構密度はかなり高いようである。

11.19　全体清掃を行い，遺構検出を行なった。古代（奈良～平安）の畑の畝と考えられる遺構と，カマド付の竪穴建物跡４軒，弥生時代の竪穴建物跡が約 10 軒検出され，外にも土坑やピット数基を検出した。

11.20　遺構検出状況を，写真撮影による記録を行った。その後，古代の畑の畝５条について掘削を行った。ＳＩ 123，124，126 にベルトを設定し，掘削を開始する。ＳＩ 123，124 は，カマド付の古代の竪穴建物跡で覆土を掘削すると硬化面が確認された。ＳＩ 126 は掘削中である。なお，遺構番号については，前回までに調査を行った塔平遺跡１，３～６区の続きを付している。

11.21　畝の清掃を行い，完掘状況の写真撮影を行った。ＳＩ 123 の南西部を掘削し，硬化面の範囲を確認した。また，ＳＩ 124 についても同様に硬化面の範囲を確認した。

11.22　ＳＫを半裁し，土層断面の撮影を行った。ＳＩ 123 の半裁を行った。ＳＩ 127 は昨日からトレンチを設定し，ベルトを残して掘削を行った。畝の実測を継続しているが，実測図の作成作業が終了し次第，さらに下位の遺構を調査する。

11.27　ＳＫ 78，80 ～ 87 については土層断面図の作成終了した後，掘削し完掘を行った。ＳＩ 127 は，硬化面上まで掘削中である。ＳＩ 128，129 はベルトを設定し，トレンチ掘削後面下げ中である。

11.28　午前中清掃を行い遺構の検出を行うとともに，既に完掘したＳＫ 78，80 ～ 88 について撮影を行った。ＳＩ 128，129 を掘削中。しかし，ＳＩ 128 より北側にはまだアカホヤ層まで至っていないため，さらに 5cm程度３層（黒ボク）を掘削した。ＳＩ 123 の土層断面図を実施した。W-26 グリッドの３層掘削中に鉄鏃が１点出土した。

11.30　２区北側の３層について，グリッドごとに掘削し，清掃を行ったうえで遺構検出を試みた。新たに検出したＳＫ及びSPについて半裁を行なった。ＳＫ 82 ～ 85，87 の平面図とＳＩ 129 の土層断面図を作成した。

12.3　ＳＫ 89 ～ 96 の半裁を実施し，終了したものから土層断面の写真撮影を行い，図面の作成作業を行った。ＳＩ 128 は覆土②層を掘削，ＳＩ 130 についてもベルトを設定し掘削を行った。

12.4　ＳＩ 127 ～ 130 までの土層断面について記録写真を撮影するため清掃を行った。新たに検出した遺構について半裁を行ない，ＳＩ 127，129 ではベルトを掘削し柱穴を検出した。これまでに検出したＳＩ（竪穴建物跡）は 123 ～ 133 までであるが，そのうちＳＩ 125 は欠番である。

12.5　ＳＩ 126，130 の平面図及び土層断面図を作成し，ベルトを掘削した。ＳＩ 130 は，当初予測していたよりも住居の幅が西側にやや広がりそうである。ＳＫ 99，100 について掘削を行い，土層断面図の作成を行なった。ＳＩ 131 について掘削を行い，当該遺構の西側部分にベッド状遺構と考えられる段差を確認した。ＳＩ 129 は，２×3.5 m で２本柱である。ＳＩ 127 は３基の柱穴が確認され，北側部分については圃場整備により壊されており長軸の 1/3 程度が失われている。

12.6　ＳＩ 128 について清掃を行い柱穴の検出を試みたが，埋土の掘削が不充分であったため，さらに掘削を行う。ＳＩ 127，129 の柱穴について土層断面図を作成し，記録写真の撮影を行った。ＳＫ 101 の土層断面について記録写真の撮影を行った。

12.7　ＳＩ 128 の掘削を行う。床面全面に硬化面が確認された。土層堆積を確認した際に，ＳＩ 128 は硬化面の下にも掘り方のラインが確認できているので図面の作成が終了した後，カマドにトレンチを設定し確認していく必要がある。ＳＩ 130 の柱穴，貯蔵穴を半裁した。ＳＩ 125，128 にトレンチを設定して掘削を行う。ＳＩ 126，127 について完掘した。調査区全体の遺構配置について 1/20 で割付図を作成した。ＳＩ 130 の個別図，ＳＩ 131 の土層断面図を作成した。

12.10　ＳＩ 126，127 を清掃し，完掘状況の記録写真撮影を行った。ＳＩ 127 には貯蔵穴らしき遺構が検出されたので，再度，完掘したうえで記録写真の撮影を行うこととする。ＳＩ 128 のカマドの崩れた粘土の範囲を図面・写真に記録し，崩れた箇

所を掘削した。ＳＩ128の下層を図面に追記した後にベルトを外し，硬化面の範囲を確認する。ＳＩ123，131のベルトとＳＩ132を掘削する。ＳＩ130の柱穴の土層断面図を作成し，記録写真の撮影を行った。

12.11　全体を清掃し，遺構の再検出を行い，併せてＳＫの完掘状況の記録写真を撮影した。ＳＩ130は柱穴を完掘した後，記録写真の撮影を行った。ＳＩ130で確認されていた貯蔵穴としていたものは，竪穴建物跡外に広がりそうでＳＩ130とは関係なさそうである。ＳＩ127も同様にＫ１としていたが，竪穴建物跡外に広がりそうである。調査区北側にあった炉穴と思っていたものは，ＳＩ126のカマドになる可能性があり，覆土についてもあと10cm程度掘削できそうである。

12.12　新たに検出したＳＫとＳＩの掘削を進める。ＳＩ123のカマドについて短軸方向にトレンチを設定し，土層を確認する。ＳＩ126は，以前の断面ポイント上にベルトを残しつつ，カマドを長軸方向にベルトを設定し掘削を進める。ＳＩ127は一度完掘したが，新たに柱穴（7，8）を検出したので改めて完掘状況の写真撮影を行った。ＳＩ130，131の柱穴とＳＩ128の土層断面，ＳＩ129の平面図，ＳＩ124のカマドの土層断面図を作成した。

12.13　ＳＩ126のカマドであると想定して掘削をしていたが，遺構の深度が異なることからＳＩ135に付属することが判明，ＳＩ135がＳＩ126を切っていると判断される。ＳＩ135は撹乱により，かなり削平を受けておりカマドは焼成面が見えている状況で，硬化面も削られているものと考えられる。ＳＩ128は硬化面までベルトを掘削し，硬化面の範囲を写真に記録した。ＳＩ123，124のカマドは土層のラインを引きなおした。

12.14　ＳＩ135のカマドの粘土，焼土範囲を写真に記録した。カマドは崩れており焼成面のみ残存する。カマドにはトレンチを設定し土層を確認する。ＳＩ128のカマドにもトレンチを設定し，土層を確認中である。ＳＩ126に切られているＳＩ133も掘削を開始した。午後から降雨のため作業を中止した。

12.17　ＳＩ132の柱穴を完掘，また，ＳＩ134についても完掘したので記録写真の撮影を行った。ＳＩ124のカマドＢ－Ｂ'にもトレンチを設定し土層を確認する。ＳＩ123のカマドは崩れている部分を取り除き，袖部分と焼成面が見えてきたので明日から残存状況を撮影，図面を作成する。SY12は平面図（S=1/10）の作成が終了したので，ポイントを軸に北から南を見通した断面図を作成する。調査区南側はＳＫやＳＩなど完掘したので，２区南側を清掃し南側の全景，完掘状況の写真撮影を行った。今後は，５層（アカホヤ火山灰層）をグリッドごとに掘削し，縄文時代早期の遺構の存在について精査を行う。

12.18　ＳＩ135のベルトを掘削するとともに，塩ビ管の埋設によって削られている北側の覆土を掘削した。SY11の平面図とＳＩ132の平面図，ＳＩ135のカマド土層断面図（Ｃ―Ｃ'）を作成した。

12.19　ＳＩ-123は当初の予測では切り合いのない古代の竪穴建物跡と考えていたが，塩ビ管による撹乱の南壁を確認した結果，ＳＩ123を切っている竪穴建物跡（ＳＩ137）の存在が確認された。ＳＩ126のＣ―Ｃ'，Ｄ―Ｄ'のトレンチ壁を確認し，焼成面の焼土が途切れる箇所もあり，そこでＳＩ137の切り合いが確認できる。当初，ＳＩ126の硬化面として写真の記録を行ったものも，おそらくＳＩ137に伴う硬化面である。今後は，ＳＩ137を調査した後に，ＳＩ126の調査を進めることにする。

12.20　ＳＩ137，123を清掃し，ＳＩ137のカマドの残存状況や切り合い関係について土層断面の記録写真を撮影する。土層断面図については，以前作成したＳＩ123の土層断面図を修正する形で作成する。平面図も新たに作成中である。ＳＩ135と128は，カマドの短軸方向の土層断面の作成が終了したので，土色の注記が終わり次第粘土の崩れ部分を取り除いて残存状況（袖，焼成面）の確認記録を行う。ＳＩ124は袖部分の残存状況について図面（S=1/10）の作成が終わったので，粘土を外して焼成面を検出する作業を行う。

12.21　降雨のため作業を中止する。ＳＩ137，123のカマドについて個別の平面図とＳＩ137，123の土層断面図の修正，確認を行った。

12.25　ＳＩ128，124，137のカマドの袖部分を掘削し，焼成面を図面に追記する。ＳＩ124は，カマドの掘り方まで掘削する。

12.26　ＳＩ128を掘削。ＳＩ136の平面図及び断面図の作成を行った。

12.27　ＳＩ135，128，123（カマド付住居）やＳＫ110を完掘する。全体清掃し，調査区全景の写真撮影を行った。ＳＩ137の平面図，ＳＩ133の平面図及び断面図の作成を行った。

1.4　ＳＩ136の完掘状況の写真を撮影した。切り合いの先後関係順（ＳＩ126⇒ＳＩ133）に完掘状況の写真撮影を行った。外にも集石や土坑の完掘状況の写真撮影を行う。

1.7　ＳＫ111，102を掘削。ＳＩ123，126の平面図を作成し，ＳＫ102の土層断面及び完掘状況の写真撮影を行った。

1.11　ＳＫ111，117を完掘し，平面図の作成作業を行った。ＳＫ111，117は，縄文時代の焼土坑で切り合い関係が認められる（ＳＫ117⇒ＳＫ111）。

3　整理作業［平成25，26年度］

平成25年度は，現地で作成した遺構実測図等について報告書掲載の図版作成のためデジタルトレースを行い，出土品の水洗いを行った後，遺跡名・出土位置（グリッド，層位）・取り上げ番号等について註記を行った。土器類については，接合作業を実施し必要に応じて石膏で補完している。その後，報告書掲載遺物の選別を行い，実測図作成及びデジタルトレース作業を実施した。

平成26年度は，報告書に係る原稿執筆及びレイアウト作業を行い印刷を実施した。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の環境

１　地理的環境

塔平遺跡が所在する熊本県上益城郡益城町は，北緯 32 度 47 分，東経 130 度 50 分に位置する。東西約 11㎞，南北約 13㎞，面積 65.64k㎡を測り，熊本県のほぼ中央に位置する。行政域としては上益城郡に属し，その北部に位置する。西は上益城郡嘉島町，西から北西に熊本市，北は菊池郡菊陽町，東は阿蘇郡西原村，南は上益城郡御船町と接する。東部，南部は九州山地から連なる城山（480.4 m），朝来山(469.5 m)，船野山(307.8 m)，飯田山(481.2 m）などが山塊を形成する。北部は広大な益城台地と呼称される畑作地帯が広がり，西部は中央を赤井川，木山川が貫流する低地で熊本平野に連なりその東域をなす。

本遺跡の東側には，益城町から八代郡氷川町を結ぶ国道 443 号線が縦走し，交通の要衝となっている。町の北端部には熊本県の空の玄関口である阿蘇くまもと空港が所在し，西側を九州縦貫自動車道が南北に走り，北西端に益城熊本空港ＩＣを有し，交通網や立地条件の良さから近年は著しく人口が増加するとともに，開発工事も進んでいる。

また，益城町には，津森の金山川沿い及び木山川沿いに巨礫層「下陣礫層」，金山川沿いに泥層「津森層」が分布する。益城台地の標準的な土層堆積は，表土以下黒色土（黒ボク），暗褐色土（アカホヤ火山灰２次堆積層），ブロック状の土（ニガ土），黄褐色粘質土（ローム層）である。

２　歴史的環境

(1) 旧石器時代

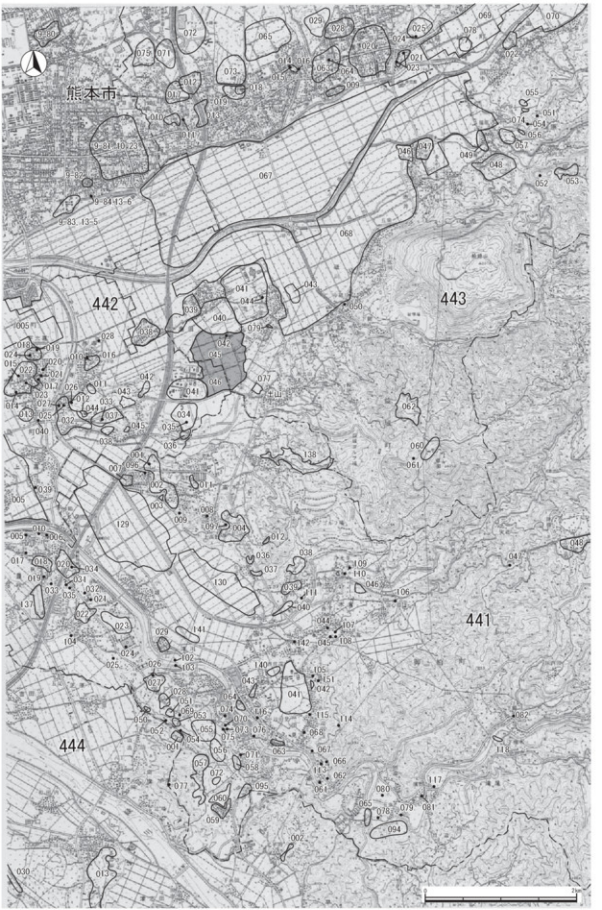
［ＡＴ下位の石器群］

熊本県における始良 Tn 火山灰（AT）下位の遺跡として最古段階に位置づけられる。遺跡としては，暗色帯下位の黄褐色粘質土層上位から検出された類ナイフ状石器，削器を主体とする沈目遺跡（木崎 2002）や台形様石器，スクレイパー，ピック，石錐，刃部磨製石斧を主体とした石器群が出土した石の本遺跡８区Ⅵｂ層石器群（池田 1999），台形様石器を主体とする曲野遺跡（江本 1984），瀬田池ノ原遺跡第１文化（稲葉 2010）がある。次に，暗色帯下部から検出された石器群では，台形様石器を主体とする耳切遺跡Ａ地点第Ｉ石器文化，同Ｃ地点第Ｉ石器文化，同Ｄ地点第Ｉ石器文化（村崎編 1999），河原第 14 遺跡第Ｉ文化（芝 2007），ペン先形ナイフ形石器・スクレイパー・刃部磨製石斧を出土した石の本遺跡 54 区Ⅵａ層石器群，同 55 区第１石器群（廣田 2001）がある。さらに上層の草千里バミス上位から検出された瀬田池ノ原遺跡第２文化では柳葉形二側縁加工ナイフ形石器が出土しており，同様の石器組成がみられる石器群としては，下城遺跡２文化や耳切遺跡Ａ地点第Ⅱ石器文化，クノ原遺跡などがある。ＡＴ直下の暗色帯から検出された瀬田池ノ原遺跡第３文化では小型の二側縁加工ナイフ形石器や切出型ナイフ形石器が検出されている。同様の石器群としては，狸谷遺跡１石器文化，久保遺跡１石器文化があげられる。ここまでがＡＴ下位の石器群である。

［ＡＴ上位の石器群］

ＡＴ火山灰を包含する上層から上位の暗色帯にかけて検出された瀬田池ノ原遺跡第４文化では，二側縁加工ナイフ形石器が認められる。ＡＴ上位の石器群については，瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡，石の本遺跡 54 区，同 55 区，河原第 14 遺跡などでは堆積が厚く複数の文化層に区分できる事例が増えているが，大半は石器群の様相から時期変遷を類推する状況である。次に，ＡＴ直上の暗色帯の上層から横長剥片素材の一側縁加工ナイフ形石器や原ノ辻型ナイフ形石器，三稜尖頭器が出土している（瀬田池ノ原遺跡第５文化）。また，瀬田池ノ原遺跡では，さらに上層のハードローム層から多様な形態のナイフ形石器が検出され（瀬田池ノ原遺跡第６文化），ソフトローム層から細石刃，細石刃核が出土している（瀬田池ノ原遺跡第７文化）。

近年，瀬田池ノ原遺跡や耳切遺跡，石の本遺跡 54 区，同 55 区，河原第 14 遺跡のように土層堆積に恵まれ，複数の石器群が重層的に確認される事例が増えており，当該地域の旧石器時代石器群の変遷



第 2 図　塔平遺跡と周辺の遺跡 (1/50000)

第３表　　塔平遺跡周辺遺跡一覧表

上益城郡益城町(443)

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
443-001	小久保遺跡	上小久保　下小久保	縄文～中世	包蔵地		
443-009	古川遺跡	安永　古川	弥生・古墳	集落		
443-010	築山遺跡	広崎　築山・西原	弥生～古代	包蔵地		
443-011	築山古墳	広崎　築山	古墳	古墳		稲荷さん
443-012	古閑遺跡	古閑　宅地	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生、土師器外の遺物包含
443-013	福富遺跡	古閑　石井川　ほか	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生、土師器外の遺物包含、瓦片
443-014	駄河原遺跡	馬水　駄河原	縄文・弥生	包蔵地		
443-015	狐塚古墳	馬水　駄河原	古墳	古墳		埴輪片・須恵器
443-016	馬水製鉄所跡	馬水　駄河原	古代・中世	生産		ふいご羽口・鉱滓・青磁・土師器
443-017	広崎六本木遺跡	広崎　六本木	古墳	包蔵地		
443-018	惣領遺跡	惣領　高木	縄文～古代	包蔵地		
443-019	高木箱式石棺群	惣領　高木	古墳	埋葬		石棺多数
443-020	宮園A遺跡	木山　遠見塚　ほか	弥生	包蔵地		弥生中期土器
443-021	木山城跡	寺迫　城ノ本	弥生	城		下部に弥生後期住居址群
443-022	平田遺跡	平田　境	弥生	包蔵地		弥生墳棺
443-023	城ノ本古墳群	寺迫　城本	古墳	埋葬	町	円墳・箱式石棺（移転）町有形文化財（考古資料）指定：城ノ本古墳出土品　H18「城の本２号墳」『益城町文化財調査報告』第２０集（2006）
443-024	上ノ原箱式石棺	寺迫　上ノ原	古墳	埋葬		
443-025	上ノ原遺跡	寺迫　上ノ原	弥生	埋葬		弥生墳棺群
443-028	辻遺跡	宮原　辻	縄文～中世	包蔵地		
443-029	宗曾利遺跡	安永　宗曾利	縄文～中世	包蔵地		
443-038	櫛島遺跡	島田　南島	縄文	包蔵地		縄文土器
443-039	立石遺跡	島田　立石	弥生	包蔵地		弥生土器
443-040	東無田遺跡	島田　東無田居敷	弥生	包蔵地		弥生中期土器・墳棺
443-041	秋永遺跡	小池　秋永　ほか	弥生	集落		弥生中・後期、土師器
443-042	鬼塚古墳	小池　鬼塚	古墳	古墳		
443-043	八反田遺跡	砥川　八反田	弥生	埋葬		弥生中期墳棺
443-044	秋永石棺群	小池　秋永・麻生原	古墳	埋葬		
443-045	**塔平遺跡**	小池　塔平・鳥越・小迫原・牛井川・鬼塚・西原～嘉島町　井寺上大迫・小足坂	縄文・弥生 奈良～平安	包蔵地 散布地		
443-046	赤井遺跡	赤井　曽町	古代	包蔵地		土師器
443-047	赤井城跡	赤井　本丸	中世	城		「本丸」の地名あり
443-048	福原横穴群	福原　西鳥山	古墳	古墳		平瓶
443-049	福田遺跡	福原　福田寺	古墳・古代	包蔵地		大小土師器壷２個出土
443-050	砥川城跡	砥川　城尾	中世	城		（城の尾城跡）
443-051	安養寺跡	福原　杉ノ久保	中世	寺社		
443-052	鬼の窟古墳	福原　南市川	古墳	古墳		行者窟の様相強
443-053	福田寺跡	福原　福田寺	古代・中世	寺社		須恵磁骨器・青磁
443-054	うどばば横穴	福原　杉久保	古墳	古墳		
443-055	五千塚箱式石棺	福原　五千塚	古墳	埋葬		
443-056	原志山遺跡	福原　原志山	縄文～古代	包蔵地		弥生土器・磨製式土器
443-057	上ノ原箱式石棺群	福原　上ノ原	古墳	埋葬		
443-060	飯田山常楽寺跡	砥川　飯田・常楽寺	古代・中世	寺社		古塔碑散乱
443-061	飯田古墳	砥川　飯田・常楽寺	古墳	古墳		
443-062	出口平城跡（飯田城跡）	砥川　樋口・大人足	中世	城		
443-063	安永遺跡	安永	弥生～古代	包蔵地		
443-064	火迫石棺群	安永	古墳	埋葬		
443-065	大辻遺跡	馬水　大辻	縄文～平安	包蔵地		
443-067	条里跡		古代・中世	生産		
443-068	条里跡		古代・中世	生産		
443-069	条里跡		古代・中世	生産		
443-070	条里跡		古代・中世	生産		
443-071	梨木遺跡	広崎　梨木	縄文～弥生	包蔵地		
443-072	古閑北遺跡	古閑　崎久保・横道	縄文～弥生	包蔵地		

443-073	野垣迫遺跡	福富　野垣迫	縄文～中世	包蔵地		
443-074	杉の久保遺跡	福原　杉の久保	弥生	包蔵地		
443-075	松山峠遺跡	広崎　松山峠	縄文	散布地		縄文後期～晩期の土器
443-077	中原遺跡	小池　中原	縄文～古墳	包蔵地		
443-078	小柳遺跡	寺迫　小柳	古墳	集落		古墳時代住居跡「小柳遺跡」『益城町文化財調査報告』第２１集（2010）
443-079	小池遺跡	小池　小池	中世	包蔵地		H 24. 5. 16 新規記載

上益城郡益城町（442）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
442-005	矢形川流域条里跡	下六嘉　上島・鯰ほか	古代・中世	生産		
442-010	井寺古墳	井寺　嘉屋敷	古墳	古墳	国	横穴式石室墳、飛何文様あり。直刀大正 10 年 3 月 3 日指定
442-011	上官塚古墳群　上官塚１号古墳・２号古墳	井寺　上官塚	古墳	古墳		
442-012	上官塚遺跡	井寺　上官塚	弥生	埋葬		弥生墳棺
442-013	カキワラ遺跡	下六嘉　カキワラ	弥生	埋葬		弥生墳棺
442-014	カキワラ貝塚	下六嘉　カキワラ	縄文	貝塚		縄文前後期の土器
442-015	宮の本墳棺群	下六嘉　宮の本ほか	弥生	埋葬		弥生墳棺・石庖丁・箱式石棺
442-016	井寺遺跡	井寺　嘉屋敷	縄文～中世	包蔵地		
442-017	道上城跡	下六嘉　泉上	中世	城		
442-018	西光寺遺跡	下六嘉　西光寺	縄文～中世	包蔵地		
442-019	西光寺墳棺群	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬		
442-020	内屋敷遺跡	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬		
442-021	蹲踞神の墓（菊地武光）	下六嘉　西光寺	中世	墓		
442-022	下六嘉遺跡群	下六嘉	弥生～古代	包蔵地		
442-023	六墓神社の五重塔	下六嘉　宮の本	中世	石造物		
442-024	下六嘉の五輪塔	下六嘉	中世	石造物		
442-025	遠見塚の塔	井寺　遠見塚	中世	石造物		
442-026	御原古墳	北甘木　御原	古墳	古墳		
442-027	御原墳棺群	北甘木　御原	弥生	埋葬		
442-028	手水鉢	特　浮島	中世	石造物		
442-032	石塚遺跡	北甘木　石塚ほか	縄文・弥生	埋葬		縄文後・晩期土器・弥生墳棺
442-033	御前塚古墳	北甘木　塔の木	古墳	古墳		
442-034	二子塚遺跡	北甘木　二子塚ほか	弥生・古代	包蔵地		掘建集落
442-035	二子塚古墳	北甘木　二子塚ほか	古墳	古墳		
442-036	下古閑遺跡	下古閑	縄文	包蔵地		縄文土器・土師器
442-037	塔ノ木遺跡	北甘木　塔ノ木　豆板	縄文～古代	包蔵地		
442-038	小迫遺跡	井寺　小迫	縄文	包蔵地		縄文前期土器
442-039	竜福寺跡	上六嘉　竜福寺	中世	寺社		
442-040	西林寺跡	上六嘉　中都	中世	寺社		
442-041	大願遺跡	上六嘉	弥生	包蔵地		
442-042	内野遺跡	井寺　内野	縄文・弥生	包蔵地		
442-043	町頭遺跡	井寺　弥四郎	縄文・弥生	包蔵地		
442-044	遠見塚遺跡	井寺　上官塚	縄文・弥生	包蔵地		縄文土器・弥生土器・墳棺
442-045	柴原遺跡	北甘木　柴原	縄文・弥生	包蔵地		縄文土器・弥生土器
442-046	**塔平遺跡**	井寺　上大迫・小豆板	縄文・弥生 奈良～平安	包蔵地		

上益城郡益城町（441）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
441-001	甘木貝塚	高木　甘木	縄文	貝塚		縄文遺物包含
441-002	甘木遺跡	高木　甘木	縄文	包蔵地		縄文中後期土器・土師器・須恵器
441-003	天神原遺跡	高木　南屋敷・西原	弥生	包蔵地		弥生・土師器・須恵器
441-004	高野原遺跡	高木　吹上	弥生	包蔵地		弥生・土師器・須恵器
441-005	御所塚古墳	豊秋　東原	古墳	古墳		
441-006	城塚古墳	豊秋　吹上	古墳	古墳		別名瓢塚
441-007	甘木城跡	高木　北屋敷	中世	城		中世城跡
441-008	菅原神社板碑	高木　東菅原	中世	石造物		線刻阿弥陀三尊、永正１７年大永追刻あり

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
441-009	安養寺跡	高木　阿弥陀	中世	寺社	県	
441-010	城塚	豊秋　吹上	中世	城		中世城跡
441-011	つづの山	高木　上古閑原	中世	経塚		
441-012	善助山窯跡	高木　善助山	古代・中世	生産		
441-017	二子塚古墳	豊秋　吹上	古墳	古墳		
441-018	久保（秋只）遺跡	豊秋　久保	縄文～古墳	包蔵地		
441-019	秋只古墳	豊秋　山後	古墳	古墳		土師器・須恵器
441-020	秋只古墳群	豊秋　久保	古墳	埋葬		箱式石棺主体
441-021	小坂大塚古墳	小坂　下原	古墳	埋葬	町	玉類出土
441-022	植木原遺跡	陣　植木原	古墳	埋葬		土師器・須恵器
441-023	小坂中原遺跡	小坂　中原	弥生	包蔵地		弥生中期土器・土師器・蔵骨器
441-024	塊塚古墳	小坂　上原	古墳	古墳		
441-025	京塚古墳	陣　京徳	古墳	古墳		
441-026	今城大塚古墳	滝川　大塚	古墳	古墳	町	須恵器
441-027	大塚遺跡	滝川　大塚	弥生	包蔵地		弥生後期土器
441-028	滝川中原遺跡	滝川　中原	弥生	包蔵地		弥生中期土器
441-029	平瀬城跡（今城跡）	滝川　塘添	中世	城		
441-031	秋只の四方仏塔	豊秋　山後	中世	石造物		
441-032	豊秋西原石棺	小坂　下原	古墳	埋葬		
441-033	帰帆山古墳	豊秋　山後	古墳	古墳		
441-034	長塚古墳	小坂　西八龍	古墳	古墳		
441-035	山後石棺群	豊秋　山後	古墳	埋葬		
441-036	片志和横穴群Ａ	高木　吹上	古墳	古墳		
441-037	片志和横穴群Ｂ	高木　吹上	古墳	古墳		
441-038	上の原遺跡	高木　鷲崎	古墳	包蔵地		土師器・須恵器
441-039	鶴亀遺跡	高木　鷲崎	弥生	包蔵地		弥生土器
441-040	落合横穴群	高木　辺田	古墳	古墳		
441-041	御船高校遺跡	辺田見　村下・山下	古代・中世	包蔵地		瓦器
441-042	木倉観音院遺跡	辺田見　山神	古代・中世	包蔵地		瓦器
441-043	御船古城跡	御船　下囲	中世	城	町	
441-044	西木倉六地蔵	木倉　井出下	中世	石造物		
441-045	甲斐宗運の墓	木倉　毘沙門	中世	墓	町	永寿寺内にあり　町有形文化財（建造物）指定：甲斐宗運夫婦の墓
441-046	木倉・西原の箱式石棺群	木倉　原	古墳	埋葬		
441-047	郡見坂古墳	上野　郡見坂	古墳	古墳		
441-048	古閑の原遺跡	上野　古閑原	縄文	包蔵地		鉄鏃・縄文
441-050	滝川岩屋堂横穴	滝川　岩屋堂	古墳	古墳		
441-051	南原遺跡	滝川　南原	縄文・弥生	包蔵地		縄文早期土器・弥生土器
441-052	岩屋堂Ｂ横穴群	御船　下岩屋堂	古墳	古墳		
441-053	岩屋堂Ｂ遺跡	御船　下岩屋堂	縄文	包蔵地		縄文後期土器
441-054	岩屋堂Ａ横穴群	御船　下・上岩谷堂	古墳	古墳		人骨
441-055	下山神遺跡	御船　下山神	弥生	包蔵地		弥生後期土器
441-056	岩屋堂Ａ遺跡	御船　上岩屋堂	縄文・弥生	包蔵地		縄文晩期土器・弥生後期土器
441-057	下瓜山遺跡	御船　下瓜山	弥生～古代	包蔵地		
441-058	中山神遺跡	御船　中山神	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・石斧
441-059	上瓜山遺跡	御船　上瓜山	縄文	包蔵地		縄文晩期土器・土師器・須恵器
441-060	上山神遺跡	御船　上山神	弥生	包蔵地		弥生後期土器
441-061	東禅寺第２号古墳	辺田見　東禅寺	古墳	古墳		
441-062	東禅寺第１号古墳	辺田見　東禅寺	古墳	古墳		須恵器・金冠
441-063	辺田見貝塚	辺田見　下鶴	縄文	貝塚		縄文中後期土器
441-064	六丁目遺跡	御船　町園（６丁目）	弥生	包蔵地		弥生土器
441-065	玉虫経塚群	滝尾　玉虫	中世	経塚		
441-066	阿部家の墓	辺田見	近世	墓地		
441-067	光永平蔵の墓	辺田見　甲斐山	近代	墓		
441-068	木倉手永会所跡	辺田見　山下	近世	包蔵地		移転（佐久間氏宅）
441-069	相良塚	滝川　東原	中世	墳墓		

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
441-070	熊本藩士の墓	御船　町園	近代	墓	町	(十五戦士の墓)
441-071	熊本藩隊長戦の地碑	辺田見　大坂	近代	石造物		
441-072	當八塚山遺跡	辺田見	縄文～中世	包蔵地		
441-073	眺望庵跡	御船　町園（３丁目）	近世	包蔵地		片山
441-074	御船県庁跡	御船　５丁目	近代	包蔵地		保育園
441-075	肥後藩大砲鋳造所跡	御船（通称 法光寺）	近世	生産		
441-076	御船川目鑑橋跡	御船　町園（３丁目）	近世	包蔵地	県	嘉永元年（1848）種山石工の卯助、卯市、丈八によって築造された長さ60.8ｍの二連眼鏡橋である。昭和63年５月３日流失、基礎部分現存、石材保管。昭和58年10月18日指定
441-077	白旗山墓地群	御船　上瓜山	近代	墓地		
441-078	玉虫の如法塚経塔	滝尾　玉虫	中世	石造物	町	永保元年辛酉十二月二十三日 町有形文化財（建造物）指定：玉虫の経塔
441-079	玉虫寺跡	滝尾	中世	寺社		
441-080	玉虫六地蔵	滝尾	中世	石造物		
441-081	横野光明真言塔	滝尾　横野	中世	石造物	町	光明真言（延文４年）
441-082	下鎌眼鏡橋	滝尾　下鎌	近世	建造物	町	
441-094	玉虫遺跡	玉虫	古墳～古代	包蔵地		
441-095	妙見坂遺跡	辺田見　下辺田見	弥生～古代	包蔵地		
441-096	甘木地蔵堂の板碑	高木　甘木	中世	石造物		阿弥陀来迎像
441-097	年星神社の板碑	高木　吹上	中世	石造物		阿弥陀三尊像
441-102	水神社の板碑	滝川　新地	近世	石造物		享保１２年
441-103	聖寿院の板碑	滝川　新地	中世	石造物		種子字「ケーン」
441-104	金光寺の六地蔵塔	陣　居屋敷	中世	石造物		残欠２基
441-105	観音院の板碑群	木倉　観音院	中世	石造物		天正８年他、数十基有り
441-106	宗心原の板碑	木倉　宗心原	中世	石造物		絵図面石
441-107	永寿寺の板碑・石塔	木倉　屋敷	中世	石造物	町	無銘・永禄１３年、町有形文化財（建造物）指定：永寿寺の石塔
441-108	永寿寺門前の板碑	木倉　屋敷	中世	石造物		阿弥陀三尊
441-109	浄光寺の板碑	木倉　浄光寺	中世	石造物		享禄３年・永禄７年（追刻１１年）
441-110	浄光寺跡	木倉　浄光寺	中世	寺社		
441-111	北木倉の板碑	木倉　辺田	中世	石造物		阿弥陀三尊・天文１８年建
441-113	東禅寺木造釈迦三尊像	辺田見　東禅寺	中世	石造物	県	県重要文化財（彫刻）指定，甲斐宗運夫婦の墓 町指定，六地蔵 町指定
441-114	上辺田見の板碑	辺田見　山神	中世	石造物		永禄２年・天文１７年
441-115	中通橋	辺田見　山下	近世	建造物		安政２年建
441-116	大早手川橋	辺田見　町園	近世	建造物		橋上はコンクリート
441-117	明王堂の板碑	滝尾　明王堂	中世	石造物		天文８年建
441-118	下梅木の板碑	滝尾　広瀬	中世	石造物		永禄９年
441-129	条里跡	小坂・高木	古代・中世	生産		
441-130	条里跡	木倉	古代・中世	生産		
441-137	秋只山下遺跡	豊秋　秋只	弥生～中世	集落		
441-138	山下遺跡	高木　下前田・山下・鼎山	縄文・中世	包蔵地		
441-140	辺田見中道遺跡	木倉～辺田見　辻	縄文	包蔵地		縄文土器・石器
441-141	滝川石田遺跡	滝川	縄文・古墳	包蔵地		縄文土器・須恵器・土師器
441-142	門前川橋	木倉	近世	建造物	町	文化５年建
441-151	木倉辻窯跡	木倉　辻	古墳・古代	生産地		須恵器・削平により全容不明

上益城郡益城町（444）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
444-001	中尾原遺跡	白旗　中尾	弥生	包蔵地		弥生中後期土器・石庖丁・石斧
444-002	北早川横穴群	白旗　北早川	古墳	古墳		
444-013	田口東原遺跡	田口　東原	縄文	包蔵地		縄文（晩）・須恵器・黒曜石
444-030	中山鍋川遺跡	中山　鍋川	弥生・古代	集落跡		土師器・須恵器・弥生土器

熊本市遺跡地図

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備　考
9-80	仁王原遺跡	熊本市東区健軍町仁王原	縄文～平安	包蔵地		
9-81 10-23	沼山津遺跡	熊本市東区秋津町	弥生～平安	包蔵地		
9-82	下津代里遺跡	熊本市東区秋津町	縄文～平安	包蔵地		
9-83, 13-5	沼山津貝塚	熊本市東区秋津町３丁目沼山津	縄文	貝塚		縄文中期・後期
9-84, 13-6	四時軒及び四時軒跡	熊本市東区秋津町沼山津	江戸	建造物	市	市指定建造物及び史跡

過程を理解するうえで貴重な資料を提供している。

また，九州横断道延岡線建設事業に伴って発掘調査が実施された山都町北中島西原遺跡でも旧石器時代の石器群が礫群や炭化物等を伴って重層的に検出されており，今後の整理報告に期待がもたれる。

(2) 縄文時代

草創期　当該期に属する遺跡は，爪形文土器群と石鏃・細石刃が検出された白鳥平B遺跡（宮坂1993），集石遺構1基と爪形文土器，石鏃，細石刃が検出された河陽F遺跡（岡本2003）や爪形文土器に細石刃核と細石刃，石鏃の共伴が確認された高畑乙ノ原遺跡（西2007），早期の遺物群に混じって爪形文土器1点が確認された無田原遺跡（木﨑1995），柳又型の有舌尖頭器が出土した古閑北遺跡（野田，濱田1999）があげられる。

早期　当該期の遺跡では，大型の長方形配石遺構や石組炉（139基），集石遺構，焼土坑，竪穴住居跡，陥し穴などの遺構とともに，押型文を施文した注口部を持つ壺形土器をはじめ多くの土器群とトロトロ石器や岩偶などを含む多くの石器群が検出された瀬田裏遺跡（緒方1993），集石遺構，炉穴などの遺構とともに，押型文土器・撚糸文・条痕文土器・塞ノ神式土器などの土器群に伴い多くの石器類が出土した中後迫遺跡（松村1978），ワクド石遺跡（古森），無田原遺跡（木﨑1995）など多くの遺跡が確認されている。

前・中期　この時期の遺跡数は早期に比べ減少し，出土する遺物量も少ない。前期の曽畑式土器，中期の阿高式土器が出土したワクド石遺跡や瀬田裏遺跡，前期の轟式土器，曽畑式土器が出土した七野尾遺跡，中期の船元式土器がまとまって出土した岡田遺跡（江本1990）などがある。

後・晩期　三万田東原遺跡では，竪穴住居跡とそれに伴う辛川Ⅰ式土器，辛川Ⅱ式土器，太郎迫式土器，三万田式土器，鳥井原式土器，御領式土器，黒川式土器，山ノ寺式土器が出土し，後期前半から晩期後半に至るまでの土器型式が継続している。また，これらとともに70個以上にも及ぶ土偶が検出されている。大鶴遺跡では竪穴住居跡15軒，土坑26基とともに後期後半から晩期前半の土器が大量に出土し，また，十字形石器，Y字形石器，打製石斧，磨製石斧，石鏃などの石器が出土している。ワクド石遺跡では，後期から晩期の土器群とともに多量の石器類や15体の土偶が出土している。

(3) 古墳時代

益城町には前方後円墳は認められないが，木山川沿いの湿地帯の開田による水稲耕作と，台地上の畑作物を生産基盤とした在地の大小の支配者階層の墳墓がみられる。

前期から中期にかけての墳墓としては，安山岩製板石で造られた箱式石棺が小池の台地上，広崎から寺迫に至る台地の縁辺部，福原や上陳の台地上などに分布している。発掘調査事例は少ないが，昭和47年に養豚場堆肥置場の造成時に発見された塔平石棺がある。調査が実施されなかったため詳細は不明であるが，前期に帰属するものと考えられる。その外，鏡を副葬していた寺迫の城の本古墳や小池の秋永遺跡で検出された方形周溝墓などがある。

中期の後半には，嘉島町に線刻と彩色により直弧文が装飾された井寺古墳が築造された。宮園にある小柳遺跡では，古墳時代前期から中期頃を中心とした集落跡が検出されている。

後期になると，熊本平野東部の勢力の中心は御船町へ移行したとみられ装飾を持つ今城大塚古墳が築造される。益城町小池の鬼塚古墳，寺迫の遠見塚古墳，福原の鬼の窟古墳は，その勢力下にある地域豪族の墳墓と考えられる。

また，横穴墓は県道熊本・高森線に沿った寺迫から田原にかけての崖面と福原に見られ，寺中の上神内横穴墓群の発掘調査からみると，副葬品は豊かではないが鉄刀や装身具類を伴うことから一般民衆の墳墓とは考えにくく，地域の豪族，支配者層一族の墳墓であると考えられる。

第2節　遺跡の層位と包含層

本遺跡の基本土層は，第3図に示したとおりである。土層観察用の断面は，調査区東側壁と試掘トレンチNo.25北壁を用い，色調及び土質の違いによって1～7層に分層した。ただし，発掘調査時の観察では，2層の黒ボク層は調査区全面に存在せ

ず，表土（耕作土）層下に３層が存在する範囲が認められた。そのため，黒ボク層以下，それぞれを１～６層とし遺構検出，遺物の取り上げ等を行っていたが，本報告では表土（耕作土）層を１層として１～７層に分層した。なお，3，4層については，a，bの２亜層に細分された。土色は「新版標準土色帳」（日本色研事業株式会社発行，1986）によった。また，各層の層厚については堆積が良好で５層が観察される調査区南側の東壁及び試掘トレンチ№25北壁を計測した。

Ⅰ層：表土層（黒色：10YR2/1）　林床であったことから地表部は腐葉土化し粘性，しまり共に弱い。層厚は10～15cmを測る。

Ⅱ層：黒色土層（10YR1.7/1）　きめが細かくフカフカしている。やや粘性があり，しまりは弱い。層厚は5～20cmを測る。黒ボク層である。調査区の全面には存在せず，北側から南側への地形の屈曲部周辺では認められない。

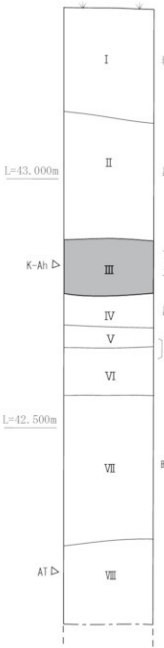
Ⅲ層：アカホヤ火山灰二次堆積層　色調によって３ａ層（暗褐色：7.5YR3/3）と３ｂ層（黒褐色：10YR2/2）に細分される。両層とも粘性があり，ややしまる。ｂ層はａ層に比べ色調が暗く，しまりがやや強い。４層との漸移層とである。層厚はａ層，ｂ層の合計で，30～40cmを測る。

Ⅳ層：黒ニガ層　色調によって４ａ層（黒褐色：10YR2/3）と４ｂ層（黒色：7.5YR2/2）に細分される。色調は上層がやや明るい。ａ層は，粘性及びしまりともやや強い。ｂ層はやや粘性が強く，しまりは強い。ａ層には，調査区南側一帯に分布する受熱により赤化した礫が混入し，ｂ層では同層から掘り込まれた炉穴が検出されている。層厚はａ層，ｂ層の合計で，40～80cmを測る。

Ⅴ層：黒褐色土層（7.5YR2/2）　やや粘性がありしまりは弱い。ローム層で柔らかい。層厚は，20～31cmを測る。

Ⅵ層：黒褐色土層（10YR3/2）　やや粘性が強く，しまりは強い。５層に比べて色調はやや暗く，きめが細かく，火山ガラスを少量含む。層厚は，18～24cmを測る。

Ⅶ層：暗褐色土層（7.5YR4/4）　やや粘性があり，しまりは弱い。全体的にザラザラし，多量の火山ガラス（白色粒子）を含む。姶良丹沢火山灰（以下ＡＴ）である。　層厚は，17～22cmを測る。



第３図　基本土層柱状図

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　縄文時代の遺構と遺物

１集石

ＳＹ１１（第７図）

５層上面で検出した。轟式土器が出土している。覆土から焼土，炭化物は検出されなかった。

ＳＹ１２（第８図）

５層上面で検出した。覆土から焼土，炭化物は検出されなかった。

２土坑

ＳＫ１１０（第 10 図）

W-27 区で検出された長軸 166㎝，短軸 96㎝，深さ 52㎝を測る長楕円形の土坑である。縄文時代の所産と推定される。

ＳＫ１１１（第 10 図）

W-27 区で検出された長軸 192㎝，短軸 147㎝，深さ 58㎝を測る不整形の土坑で，埋土中に焼土を含む。炉穴と考えられ，縄文時代早期に位置づけられよう。

ＳＫ１１３（第 12 図）

X-27 区で検出された長軸 118㎝，短軸 102㎝，深さ 32㎝を測る円形の土坑である。縄文時代の所産と推定される。

ＳＫ１１４（第 12 図）

W-26 区で検出された長軸 66㎝，短軸 66㎝，深さ 32㎝を測る円形の土坑である。縄文時代の所産と推定される。

ＳＫ１１５

V-26 区で検出された長軸 148㎝，短軸 122㎝，深さ 60㎝を測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１１７（第 13 図）

W,X-27,28 区で検出された長軸 158㎝，短軸 64㎝，深さ 36㎝を測る不整形の土坑で，埋土中に焼土を含む。炉穴と考えられ，縄文時代早期に位置づけられよう。

第２節　古代以降の遺構と遺物

１　竪穴建物跡

ＳＩ１２３（第 15,16 図）

V,W-24,25 区で検出されたカマドを持つ竪穴建物跡で，古代と考えられる。大きくSI137 に切られ，全体形は不明である。一辺 416㎝の正方形を呈すると予測され，当該期の竪穴建物跡 SI135,124,128 とも遺構の軸はほぼ同一である。

ＳＩ１２４（第 17 図）

X-25 区で検出されたカマドを持つ竪穴建物跡で，古代と考えられる。東側は調査区外に残り全体形は不明である。一辺 320㎝の正方形もしくは長方形を呈すると予測され，カマドを持つ竪穴建物跡 SI123,128,135 と遺構の軸はほぼ同一である。

ＳＩ１２８（第 18,19 図）

W -26,27 区で検出された長軸 390cm，短軸 370cm，深さ 34.9cm のカマドを持つ竪穴建物跡である。当該遺構内で小穴が４基検出され，４本柱の竪穴建物跡と推定される。

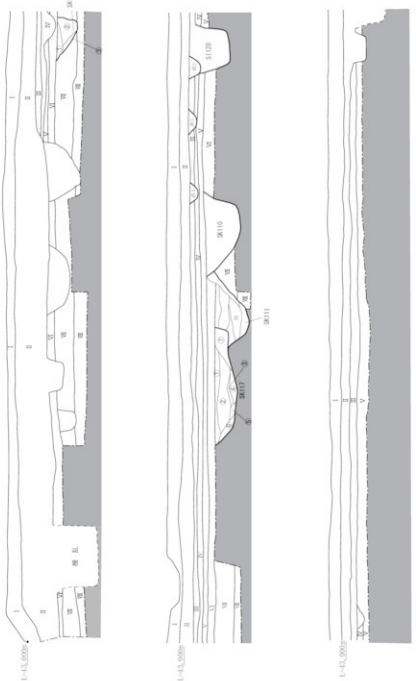
ＳＩ１３５（第 20,21 図）

V -24,25 区で検出された長軸 390cm，短軸 380cm，深さ 14.0cm の古代の竪穴建物跡である。当該遺構は，当初，焼土の部分がＳＩ１２６のものではないかと判断し，覆土を掘削していたが，後に平面と断面を再検証した結果，２棟の竪穴建物跡が切り合っていることが判明した。大部分が後世の掘削により削平され，カマドの袖部分は一部しか残っておらず，燃焼部が検出時から見えている状況であった。竪穴建物跡の覆土②層は貼床であり，①層直上辺りに硬化面が広がっていたものと推定される。削平の少ないカマド付近ではわずかに硬化面が残る。

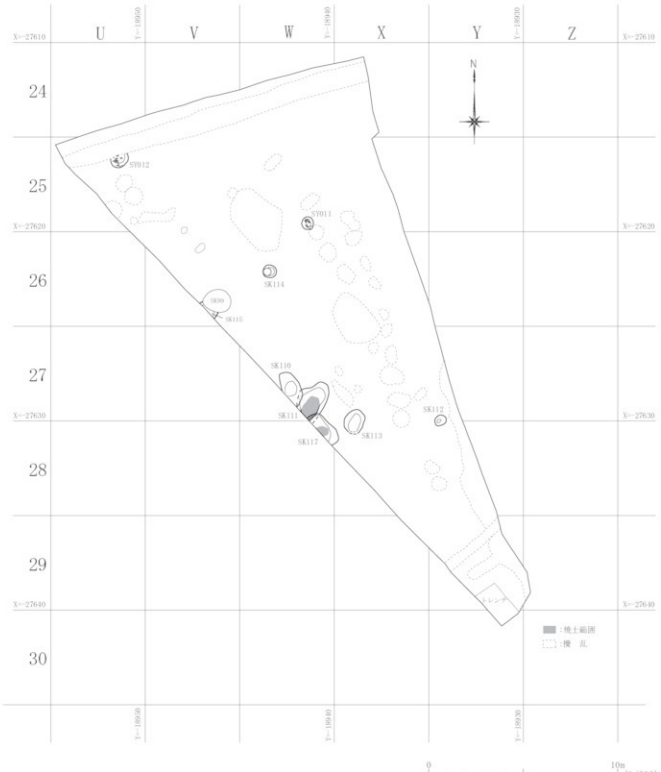
ＳＩ１３７（第 22,23 図）

V -24,25 区で検出されたカマドを持つ竪穴建物跡で，古代と考えられる。SI123 と軸を同じくし，北東にややずれる形で大きく重なる。短軸 360㎝，長軸 380㎝，深さ 24cm の長方形を呈すると予測される。

第４図　塔平遺跡２区　遺構配置図 (1/200)



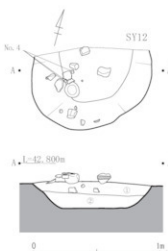
第 5 図　塔平遺跡 2 区　土層断面図 (1/60)

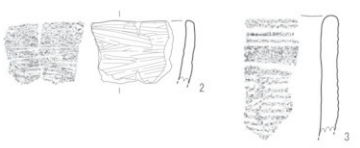


第 6 図　遺構配置図 (1/200) - 縄文時代 -

＜土層注記＞
①層 暗褐色シルト10YR3/3 しまりやや弱い
　粘性強い 橙色粒少し含む
②層 黒褐色シルト10YR3/2 しまりやや弱い
　粘性強い

第 7 図　SY11 遺構 (1/30)・出土遺物実測図 (1/3)



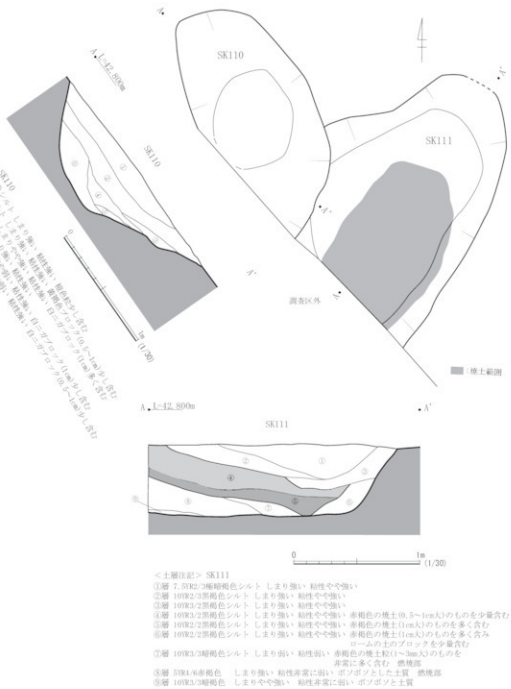


＜土層注記＞
①層 暗褐色シルト10YR3/3 しまりやや強い
　粘性強い 橙色粒少し含む
②層 黒褐色シルト10YR3/2 しまりやや強い 粘性強い
　にぶい黄褐色ブロック(1cm)わずかに含む

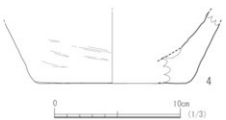
第 8 図　SY12 遺構 (1/30)・出土遺物実測図 (1/3)

＜土層注記＞
①層 黒褐色シルト10YR3/2 しまり強い 粘性強い
②層 暗褐色シルト10YR3/3 しまりやや弱い 粘性強い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む

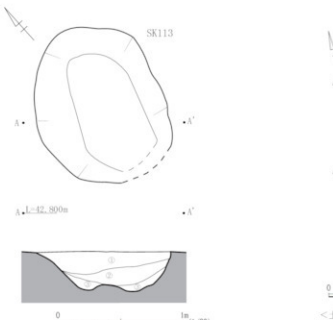
第 9 図　SK112 遺構実測図 (1/30)



第 10 図　SK110・SK111 遺構実測図 (1/30)



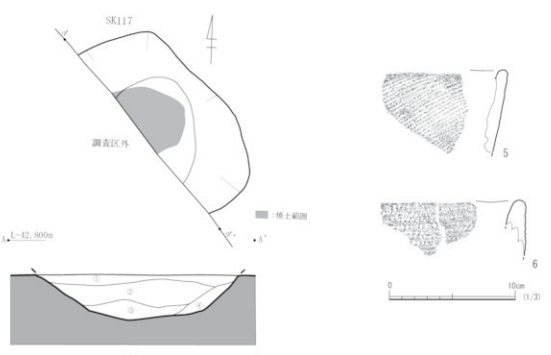
第 11 図　SK110 出土遺物実測図 (1/3)



＜土層注記＞
①層 黒褐色シルト10YR3/2　しまり強い 粘性やや強い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む
②層 暗褐色シルト10YR3/3　しまり強い 粘性やや強い
③層 にぶい黄褐色シルト10YR4/3　しまり強い 粘性やや強い
　白ニガブロック(1～2cm)多く含む

＜土層注記＞
①層 極暗褐色シルト7.5YR2/3　しまり強い 粘性弱い
　粘土(1～2cm)のブロックを少量含む
②層 黒褐色シルト7.5YR3/2 しまり弱い 粘性弱い
③層 黒褐色シルト10YR3/2　しまり弱い 粘性弱い

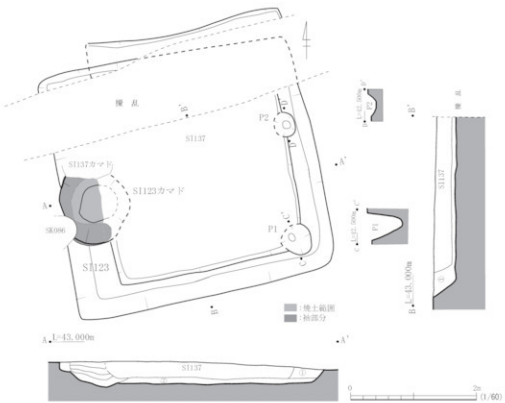
第 12 図　SK113・SK114 遺構実測図 (1/30)



＜土層注記＞
①層 暗褐色シルト10YR3/3 しまり強い 粘性強い
②層 黒褐色シルト10YR2/2 しまり強い 粘性強い 橙色粒少し含む
③層 にぶい黄褐色10YR4/3　しまり強い 粘性強い
④層 黒褐色シルト10YR3/2 しまり強い 粘性強い 白ニガブロック(1cm)少し含む

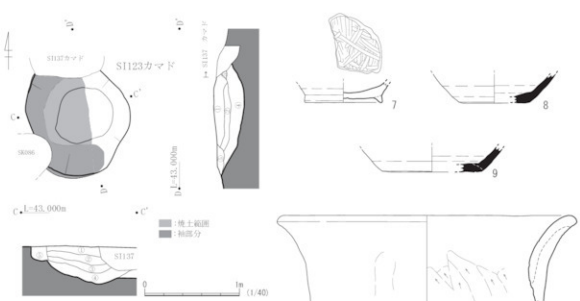
第 13 図　SK117 遺構 (1/30)・出土遺物実測図 (1/3)

第 14 図　遺構配置図 (1/200)- 古代以降 -



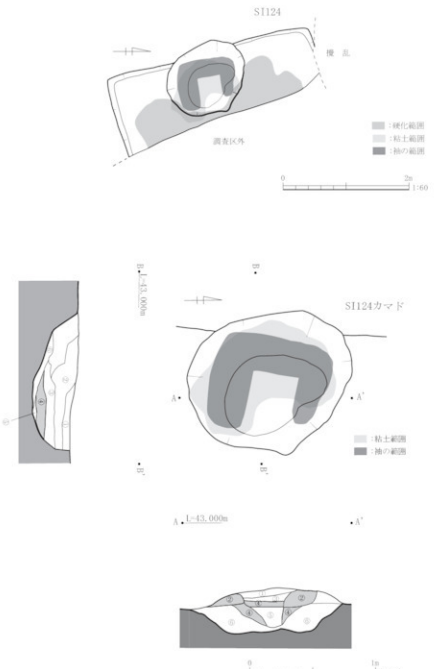
＜土層注記＞SI123
①層 7.5YR2/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い
②層 7.5YR2/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い 焼土粒を少量混じる

第 15 図　SI123 遺構実測図 (1/60)



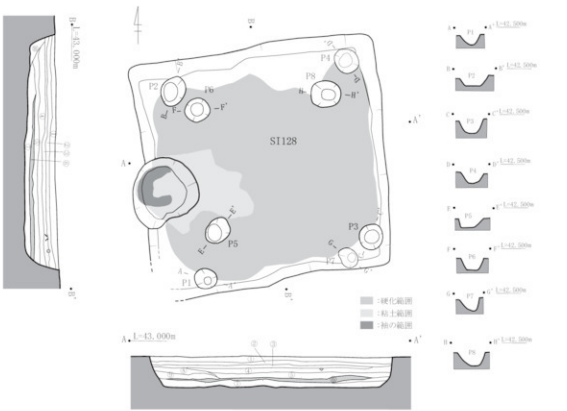
＜土層注記＞SI123カマド
①層 7.5YR4/3褐色シルト しまり弱い　粘性弱い
　赤褐色の粒を多く混じる（焼成面①）
②層 7.5YR4/6褐色シルト しまりやや弱い　粘性弱い
　赤褐色の粒を多く混じる（焼成面②）
③層 7.5YR2/3極暗褐色シルト しまりやや強い　粘性
　赤褐色の粒を多く混じる（焼成面③）
④層 7.5YR2/2黒褐色シルト
⑤層 7.5YR5/3にぶい褐色シルト しまり強い粘性強い（袖部分）

第 16 図　SI123 カマド (1/40)・出土遺物実測図 (1/3)



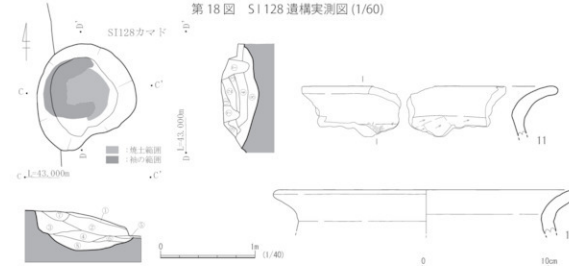
＜土層注記＞SI124カマド
①層　10YR2/3黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　(住居址埋土)
②層　10YR3/3暗褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　褐色の粘土ブロックを多く含む(袖部分の崩れ)
③層　10YR2/2黒褐色シルト　しまり弱い　粘性やや強い　褐色の粘土を多く混じる(袖部分の崩れ)
④層　10YR2/3黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　焼土粒を少量混じる
⑤層　10YR2/3黒褐色シルト　しまり弱い　粘性弱い　焼土粒を多く混じる
⑥層　10YR3/3暗褐色シルト　しまりやや強い　粘性弱い⑤層よりも焼土をわずかに含む

第 17 図　SI124 遺構 (1/60)・カマド実測図 (1/30)



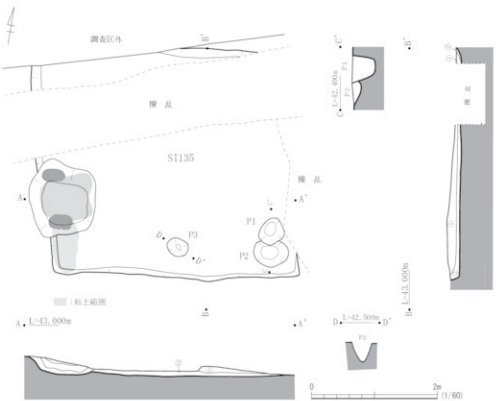
＜土層注記＞SI128
①層 7.5YR3/2黒褐色シルト　しまりやや強い 粘性やや強い
②層 7.5YR2/3極暗褐色シルト しまりやや強い 粘性やや強い 褐色の粒を少量混じる
③層 7.5YR2/2黒褐色シルト しまり強い 粘性弱い
④層 7.5YR3/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや弱い
⑤層 7.5YR2/2黒褐色シルト しまりやや強い 粘性やや弱い 褐色の粘土状のものを少量含む
⑥層 7.5YR4/2灰褐色シルト しまり非常に強い 粘性強い 硬化面だと思われる
⑦層 10YR4/2にぶい黄褐色シルト しまり強い 粘性やや強い 白ニガリ(地盤)の土を多く含む
⑧層 10YR2/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや強い 地土粒が少量混じり粘土のブロックも少量混じる
(カマドを壊した際に散ばったと考えられる)
⑨層 10YR3/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや強い 地土粒が少量混じる(カマドを壊した際に散ばったと考えられる)
⑩層 10YR2/3黒褐色シルト しまり弱い 粘性やや強い アカホヤ(V層)の土を少量混じる

第 18 図　SI128 遺構実測図 (1/60)



＜土層注記＞SI128カマド
①層 10YR3/3暗褐色　しまり弱い 粘性弱い
②層 10YR3/3暗褐色　しまり弱い 粘性弱い 明黄褐色の粘土ブロックを多く含み、地土を少量含む(崩れ)
③層 10YR2/3黒褐色シルト しまり弱い 粘性 赤褐色の粒を多く混じる(焼道の可能性も)
④層 10YR2/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い
⑤層 7.5YR4/2灰褐色シルト しまり非常に強い 粘性強い 硬化面だと思われる
⑥層 10YR3/2黒褐色シルト　しまりやや強い 粘性強い 褐色粒を少量混じる
⑦層 10YR4/2灰黄褐色　しまりやや強い 粘性強い　粘土ブロックを多く含む(袖)
⑧層 7.5YR2/3極暗褐色シルト　しまり弱い 粘性弱い(焼方)
⑨層 10YR3/3暗褐色シルト　しまり弱い 粘性弱い 明黄褐色の粘土ブロックを含み、地土を少量含む(崩れ)

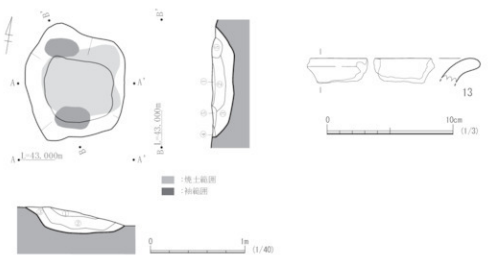
第 19 図　SI128 カマド (1/40)・出土遺物実測図 (1/3)



＜土層注記＞SI135
①層 10YR3/2黒褐色シルト しまり強い 粘性強い にぶい黄褐色ブロック(1cm)少し含む
②層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト しまり強い 粘性やや強い 白ニガブロック(1cm)少し含む

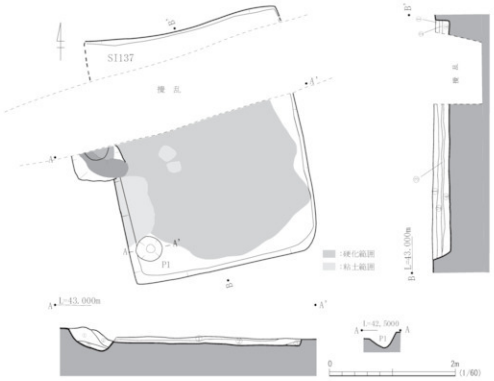
＜土層注記＞
P3：10YR2/2黒褐色シルト しまり強い 粘性強い
P4：10YR2/2黒褐色シルト しまりやや強い 粘性強い 白ニガブロック(1cm)多く含む
P5：10YR3/2黒褐色シルト しまりやや弱い 粘性強い

第 20 図　SI135 遺構実測図 (1/60)



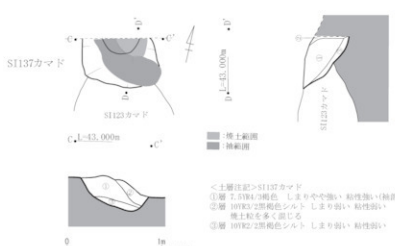
＜土層注記＞SI135カマド
①層 10YR3/3暗褐色シルト しまり強い 粘性強い
焼土粒少し含む 粘土を含む(燃焼部①)
②層 10YR3/3暗褐色シルト しまり強い 粘性やや弱い
焼土粒かなり多く含む(燃焼部②)
③層 10YR3/2黒褐色シルト しまりやや強い 粘性強い 焼土粒少し含む（カマド崩方）
④層 10YR3/2黒褐色シルト しまり強い 粘性強い 粘土ブロック(1～2cm)多く含む
(粘土の崩れ)
⑤層 10YR6/4にぶい黄橙色質土 しまり強い 粘性強い 焼土粒少し含む(カマド袖)

第 21 図　SI135 カマド (1/40)・出土遺物実測図 (1/3)



＜土層注記＞SI137
①層 7.5YR3/2黒褐色シルト しまりやや強い 粘性やや強い
1~2mmの褐色の焼土粒を少量含む
②層 7.5YR2/2黒褐色シルト しまりやや強い 粘性やや強い
③層 7.5YR3/3暗褐色シルト しまり強い 粘性強い
④層 7.5YR2/3極暗褐色シルト しまり強い 粘性弱い

第 22 図　SI137 遺構実測図 (1/60)



＜土層注記＞SI137 カマド
①層 7.5YR4/3褐色　しまりやや強い 粘性強い(袖部分)
②層 10YR3/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い
焼土粒を多く含じる
③層 10YR2/2黒褐色シルト しまり弱い 粘性弱い

第 23 図　SI137 カマド (1/40)・出土遺物実測図 (1/3)

2　土坑

ＳＫ７８（第 24 図）

X-28 区で検出された長軸 90㎝，短軸 58㎝，深さ 23㎝を測る不整形の土坑である。

ＳＫ７９（第 24 図）

X-28 区で検出された長軸 120㎝，短軸 84㎝，深さ 66㎝を測る長楕円形の土坑である。

ＳＫ８０（第 24 図）

X,Y-27 区で検出された長軸 70㎝，短軸 62㎝，深さ 32㎝を測る楕円形の土坑である。

ＳＫ８１（第 25 図）

X-27 区で検出された長軸 82㎝，短軸 62㎝，深さ 26㎝を測る不整形の土坑である。

ＳＫ８２（第 25 図）

V-26 区の SI132 中央で検出された長軸 86㎝，短軸 78㎝，深さ 24㎝を測る円形の土坑である。

ＳＫ８３（第 25 図）

W-25,26 区で検出された長軸 80㎝，短軸 60㎝，深さ 32㎝を測る楕円形の土坑である。

ＳＫ８４（第 25 図）

V-25 区で検出された長軸 178㎝，短軸 92㎝，深さ 26㎝を測る長楕円形の土坑である。

ＳＫ８５（第 25 図）

U-25 区で検出された長軸 96㎝，短軸 84㎝，深さ 22㎝を測る円形の土坑である。

ＳＫ８６（第 25 図）

V-25 区で検出された長軸 120㎝，短軸 78㎝，深さ 36㎝を測る長楕円形の土坑である。

ＳＫ８７（第 25 図）

V-26 区で検出された長軸 90㎝，短軸 84㎝，深さ 20㎝を測る円形の土坑である。

ＳＫ８８（第 25 図）

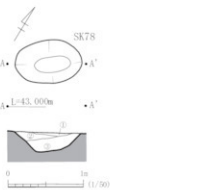
Y-28,29 区で検出された長軸 173㎝，短軸 108㎝，深さ 20㎝を測る長楕円形の土坑である。

ＳＫ８９（第 26 図）

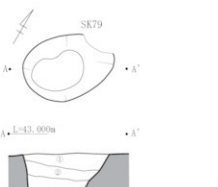
X,Y-27 区で検出された長軸 90㎝，短軸 74㎝，深さ 20㎝を測る不整形の土坑である。

ＳＫ９０（第 26 図）

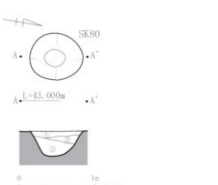
X,Y-28 区で検出された長軸 80㎝，短軸 78㎝，深さ 22㎝を測る長楕円形の土坑である。



＜土層注記＞SK78
①層 7.5YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
②層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締り強い 粘性弱い
白ニガブロック(1cm~2cm大)を少量含む

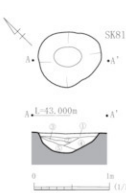


＜土層注記＞SK79
①層 10YR3/2黒褐色シルト 締りやや強い
粘性やや強い 焼色粒少し含む
②層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い
粘性やや強い 灰黄褐色ブロック(1cm)少し含む
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
白ニガブロック(1cm)わずかに含む

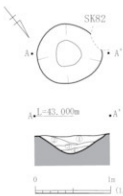


＜土層注記＞SK80
①層 7.5YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
②層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締り強い 粘性弱い
白ニガブロック(1cm~2cm大)を少量含む

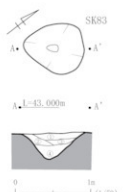
第 24 図　SK78・79・80 遺構実測図 (1/50)



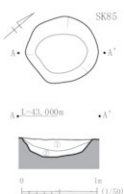
＜土層注記＞SK81
①層 7.5YR3/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
②層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締り強い 粘性強い
④層 10YR3/3暗褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
⑤層 10YR4/3にぶい黄褐色 締りやや強い 粘性強い



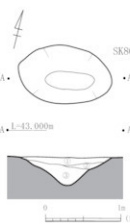
＜土層注記＞SK82
①層 7.5YR3/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
②層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締り強い 粘性強い
　土器片を少量混じる
④層 10YR3/3暗褐色シルト 締りやや強い 粘性強い



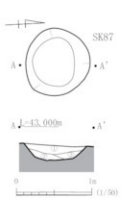
＜土層注記＞SK83
①層 10YR3/3暗褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
②層 10YR3/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
④層 10YR2/2黒褐色シルト 締り強い 粘性強い
　白ニガブロック多く含む



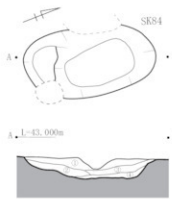
＜土層注記＞SK85
①層 10YR3/3暗褐色シルト 締り強い 粘性強い
②層 10YR3/2黒褐色シルト 締り強い 粘性強い



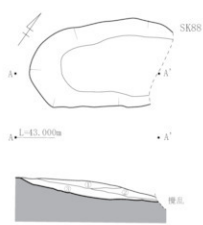
＜土層注記＞SK86
①層 10YR2/3黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
②層 10YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
③層 10YR3/2黒褐色シルト 締り強い 粘性強い



＜土層注記＞SK87
①層 7.5YR3/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
②層 10YR2/2黒褐色シルト 締りやや強い 粘性やや強い
③層 10YR2/3黒褐色シルト 締り強い 粘性強い



＜土層注記＞SK84
①層 10YR3/3暗褐色シルト 締り強い 粘性やや強い
②層 10YR3/2黒褐色シルト 締り強い 粘性やや強い
③層 10YR3/4暗褐色シルト 締りやや強い 粘性強い
④層 10YR2/2暗褐色シルト 締り強い 粘性強い



＜土層注記＞SK88
①層 10YR3/2黒褐色シルト 締りやや弱い 粘性やや弱い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む
②層 10YR3/2黒褐色シルト 締りやや弱い 粘性やや強い
③層 10YR2/2黒褐色シルト 締りやや弱い 粘性やや弱い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)わずかに含む

第 25 図　SK81 ～ 88 遺構実測図 (1/50)

ＳＫ９１（第 26 図）

W-26 区で検出された長軸 84cm，短軸 74cm，深さ 32cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ９２（第 27 図）

X-27 区で検出された長軸 98cm，短軸 90cm，深さ 52cmを測る不整形の土坑である。

ＳＫ９３（第 27 図）

W-26 区で検出された長軸 74cm，短軸 74cm，深さ 20cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ９４（第 27 図）

X-27 区で検出された長軸 70cm，短軸 50cm，深さ 22cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ９５（第 27 図）

W-25 区で検出された長軸 84cm，短軸 76cm，深さ 30cmを測る円形の土坑である。

ＳＫ９６（第 27 図）

Y-29 区で検出された長軸 136cm，短軸 112cm，深さ 24cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ９７（第 27 図）

W-25 区で検出された長軸 98cm，短軸 58cm，深さ 28cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ９９（27 図）

V-26 区で検出された長軸 148cm，短軸 122cm，深さ 32cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１００（第 29 図）

X-26 区で検出された長軸 122cm，短軸 98cm，深さ 30cmを測る不整形の土坑である。

ＳＫ１０１（第 27 図）

X-27 区で検出された長軸 90cm，短軸 70cm，深さ 22cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１０２（第 28 図）

W-26 区で検出された長軸 144cm，短軸 92cm，深さ 30cmを測る長楕円形の土坑である。

ＳＫ１０３（第 27 図）

X-28 区で検出された長軸 98cm，短軸 86cm，深さ 26cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１０４（第 27 図）

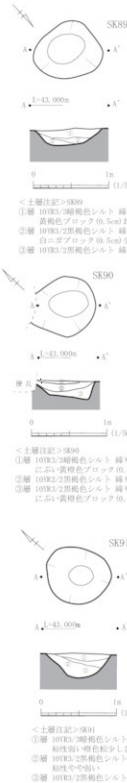
X-28 区で検出された長軸 70cm，短軸 48cm，深さ 26cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１０７（第 28 図）

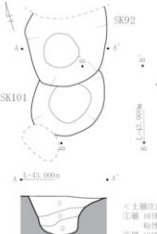
W-27 区で検出された長軸 122cm，短軸 106cm，深さ 44cmを測る楕円形の土坑である。

ＳＫ１０９（第 28 図）

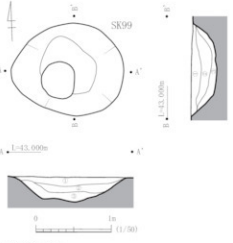
W.X-27 区で検出された長軸 140cm，短軸 104cm，深さ 46cmを測る不整形の土坑である。



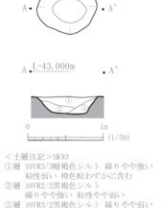
第 26 図　SK89・90・91 遺構実測図 (1/50)



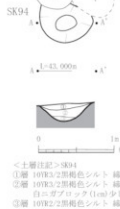
＜土層注記＞SK92
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締りやや強い
　粘性強い、橙色粒少し含む
②層　10YR3/2黒褐色シルト　締りやや強い　粘性やや強い
　にぶい黄橙色ブロック(0.5cm)少し含む
③層　10YR2/2黒褐色シルト締りやや強い粘性やや強い



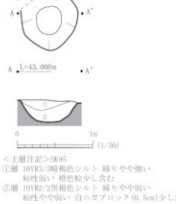
＜土層注記＞SK99
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締りやや強い
　粘性やや強い、黄橙色ブロック(1cm)少し含む
②層　10YR2/2黒褐色シルト　締り強い
　粘性強い、にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む
③層　10YR3/2黒褐色シルト　締りやや強い
　粘性やや強い、白ニガブロック(1cm)少し含む



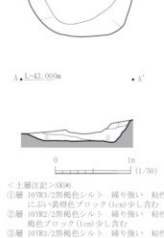
＜土層注記＞SK93
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締りやや強い
　粘性強い、橙色粒わずかに含む
②層　10YR2/2黒褐色シルト
　締りやや強い　粘性やや強い
③層　10YR3/2黒褐色シルト　締りやや強い
　粘性やや強い、白ニガブロック(0.5cm)少し含む



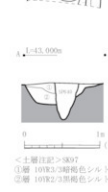
＜土層注記＞SK94
①層　10YR3/2黒褐色シルト　締りやや強い、粘性やや強い
②層　10YR3/2黒褐色シルト　締りやや強い、粘性やや強い
　白ニガブロック(1cm)少し含む
③層　10YR2/2黒褐色シルト　締りやや強い、粘性やや強い



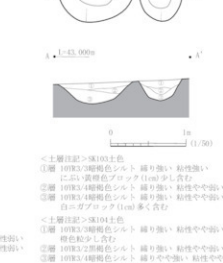
＜土層注記＞SK95
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締りやや強い
　粘性強い、橙色粒少し含む
②層　10YR2/2黒褐色シルト　締りやや強い
　粘性やや強い、白ニガブロック(0.5cm)少し含む



＜土層注記＞SK96
①層　10YR3/3黒褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む
②層　10YR2/2黒褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
　褐色ブロック(1cm)少し含む
③層　10YR3/2黒褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
　白ニガブロック(0.5~1cm)多く含む



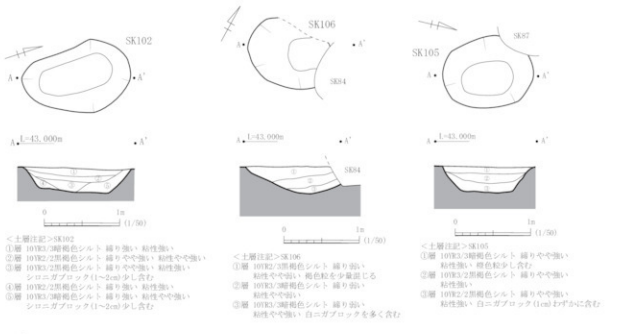
＜土層注記＞SK97
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締り弱い　粘性弱い
②層　10YR2/3黒褐色シルト　締り弱い　粘性弱い



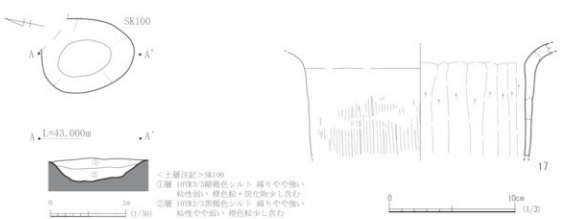
＜土層注記＞SK103土色
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締り強い　粘性強い
　にぶい黄橙色ブロック(1cm)少し含む
②層　10YR3/4暗褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
③層　10YR3/4暗褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
　白ニガブロック(1cm)多く含む

＜土層注記＞SK104土色
①層　10YR3/3暗褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
　橙色粒少し含む
②層　10YR3/2黒褐色シルト　締り強い　粘性やや強い
③層　10YR3/4暗褐色シルト　締りやや強い　粘性やや強い
　白ニガブロック(1cm)少し含む

第 27 図　SK92 ～ 97・99・101・103・104 遺構実測図 (1/50)

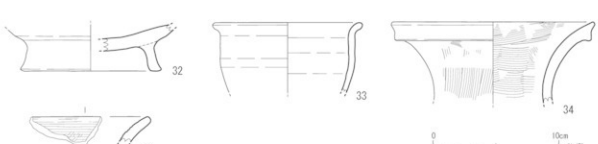


第 28 図　SK102・105 ～ 109 遺構実測図 (1/50)

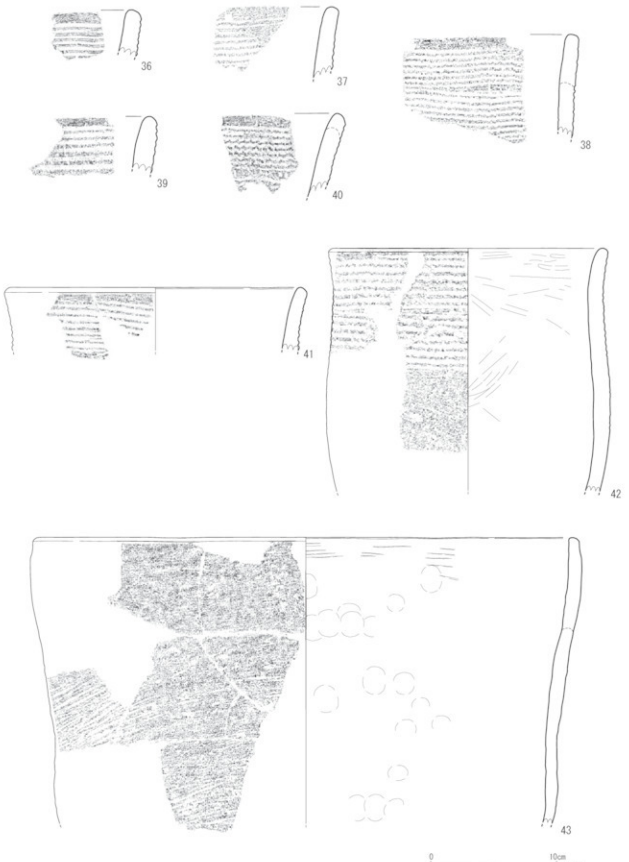


第 29 図　SK100 遺構 (1/50)・出土遺物実測図 (1/3)

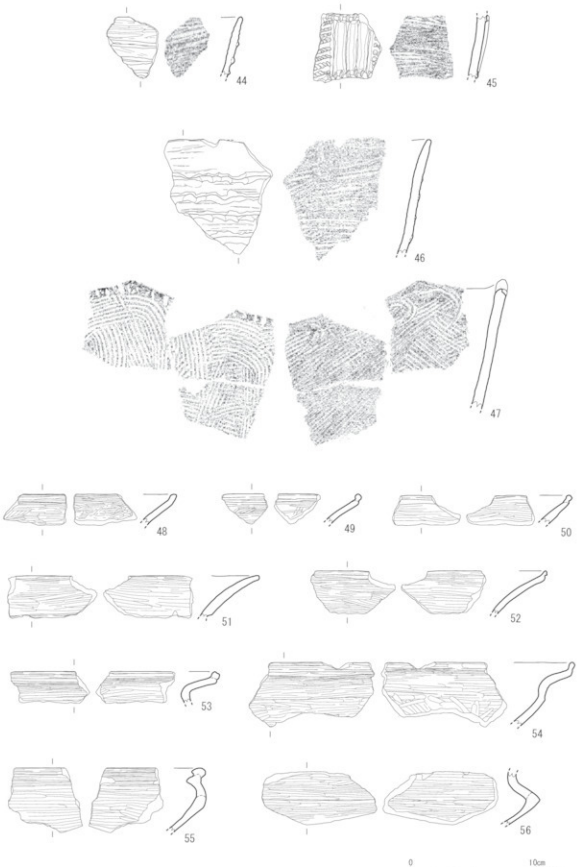
第 30 図　3 層出土遺物実測図 (1/3)



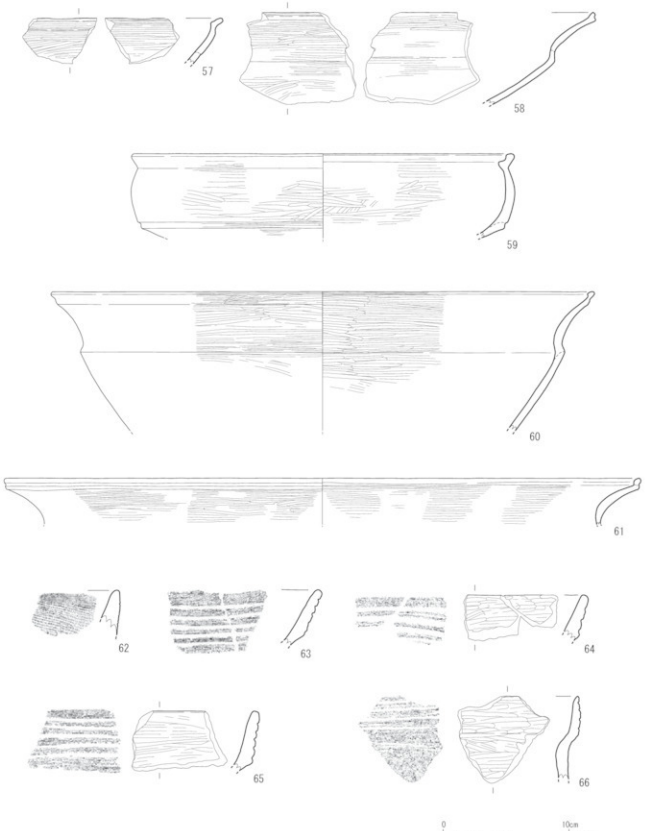
第 31 図　調査区出土遺物実測図 (1/3) -1-



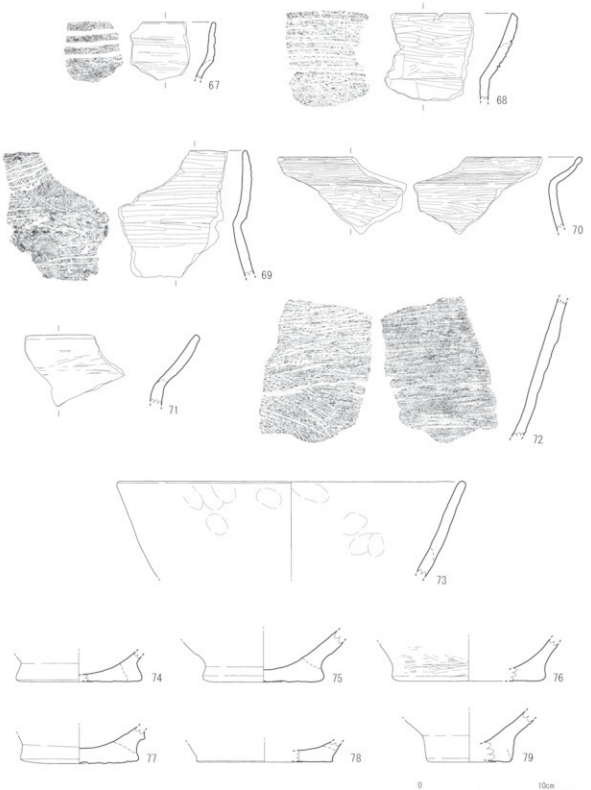
第 32 図　調査区出土遺物実測図 (1/3) -2-



第 33 図　調査区出土遺物実測図 (1/3) -3-



第 34 図　調査区出土遺物実測図 (1/3) -4-



第 35 図　調査区出土遺物実測図 (1/3) -5-

第４表　土器観察表

挿図番号	遺物番号	種別	器種	出土地点				法量（cm）			色調	
				グリッド	遺構	層位	取上げNO	口径	底径	残存高	外面	内面
7	1	縄文土器	深鉢	－	SY11	①層	NO.4	－	－	(5.7)	褐灰（10YR4/1）	にぶい黄褐（10YR5/3）
8	2	縄文土器	深鉢	－	SY12	①層	NO.1、4、5	－	－	(5.0)	にぶい黄褐（10YR5/3）	にぶい黄褐（10YR5/3）
	3	縄文土器	深鉢	－	SY12	一括	－	－	－	(9.6)	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙（10YR6/4）
11	4	縄文土器	深鉢	－	SK110	一括	－	－	(12.3)	(5.7)	橙（7.5YR7/6）	灰黄褐（10YR4/2）
13	5	縄文土器	深鉢	－	SK117	一括	－	－	－	(6.5)	黒褐（2.5Y3/2）	黒褐（2.5Y3/2）
	6	縄文土器	深鉢	－	SK117	一括	－	－	－	(4.4)	橙（5YR6/8）	橙（5YR6/8）
16	7	土師器	椀	－	S1123	①層	－	－	(6.2)	(1.6)	にぶい黄橙（10YR7/4）	黒（N1.5/）
	8	須恵器	杯	U25	S1123	①層	－	－	(5.7)	(2.3)	灰オリーブ（5Y5/2）	灰オリーブ（5Y5/2）
	9	須恵器	杯	－	S1123	③層 一括	－	－	(7.9)	(2.0)	灰（5Y6/1）	灰（5Y6/1）
	10	土師器	甕	－	S1123	①層	－	(23.8)	－	(7.3)	にぶい黄橙（10YR5/3）	橙（7.5YR6/6）
19	11	土師器	甕	－	S1128	カマド一括	－	－	－	(4.0)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	12	土師器	甕	－	S1128	カマド一括	－	(24.3)	－	(3.5)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
21	13	土師器	甕	－	S1135	カマド一括	－	－	－	(1.9)	橙（7.5YR7/6）	にぶい橙（7.5YR6/4）
23	14	土師器	杯	－	S1137	カマド一括	－	(15.0)	(12.6)	2.9	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）
	15	土師器	甕	－	S1137	④層	－	－	－	(4.4)	にぶい黄橙（10YR6/4）	橙（7.5YR6/6）
	16	土師器	甕	－	S1137	カマド一括	－	(20.0)	－	(7.1)	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR7/4）
29	17	土師器	甕	－	SK100	一括	－	－	－	(9.0)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）
30	18	土師器	杯	U25	－	3層	－	(10.6)	(6.4)	(4.4)	浅黄橙（7.5YR8/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）
	19	土師器	杯	T25	－	3層	－	(12.0)	－	(2.7)	浅黄橙（10YR8/3） 橙（5YR6/6）	にぶい橙（7.5YR7/4）
	20	土師器	椀	U25	－	3層	－	－	高台径 7.2	(1.4)	浅黄橙（7.5YR8/4）	浅黄橙（10YR8/4）
	21	土師器	椀	U25	－	3層	－	－	高台径 6.2	(1.2)	橙（7.5YR6/6）	灰黄（2.5Y6/2） オリーブ黒（5Y3/1）
	22	土師器	椀	U25	－	3層	－	－	高台径 (6.8)	(2.2)	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰黄（2.5Y6/2） オリーブ黒（5Y3/1）
	23	土師器	椀	V25	－	3層	－	－	－	(4.4)	橙（5YR6/6）	黒（7.5Y2/1）
	24	土師器	椀	T25	－	3層	－	(12.4)	－	(3.1)	橙（7.5YR7/6）	黒（N2/）
	25	須恵器	蓋	V25	－	3層	－	(15.2)	－	(2.1)	灰白（5Y7/1、7/2）	灰白（5Y7/1、7/2）
	26	須恵器	蓋	V27	－	3層	－	(15.8)	－	(1.5)	灰白（5Y7/2）	灰（10Y6/1）

胎土	調整				残存状況	備考	図版番号
	外器面	内器面	外底面	内底面			
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ミガキ	ミガキ	–	–	胴部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	横ナデ、条痕	横ナデ、ミガキ	–	–	口縁部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ、条痕 山形押し型文	ナデ	–	–	口縁部～胴部破片	縄文早期？	
長石、石英、赤褐色 粒、砂粒	条痕？ （摩耗の為調整不明瞭）	ナデ（摩耗）	ナデ（摩耗）	ナデ（摩耗）	底部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	ナデ、条痕	ナデ	–	–	口縁部破片	内面ほぼ欠損 縄文早期か？	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ、刺突文	ナデ	–	–	口縁部破片	縄文早期？	
長石、角閃石、雲母 赤褐色粒、砂粒	回転ナデ	–	回転ナデ後ナデ	ミガキ	底部1/3残存	高台付 黒色土器A類	
長石、石英、砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り離し後ナデ	回転ナデ	口縁部4/1残存	内外面焼きムラ	
長石、砂粒	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラ切離し後ナデ 工具痕	回転ナデ	体部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒 小石	横ナデ、ナデ、指頭痕？	横ナデ、ケズリ？	–	–	口縁部～胴部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	横ナデ、ハケ目	横ナデ、ケズリ	–	–	口縁部破片		
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	横ナデ	横ナデ	–	–	口縁部1/6残存		11
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	横ナデ	横ナデ	–	–	口縁部破片		
長石、赤褐色粒、砂粒	ヘラ磨き後ナデ	ヘラ磨き後ナデ	ヘラ切り後ナデ （摩耗の為調整不明）	ナデ	口縁部～体部1/10 底部1/4残存	内外面赤彩？ 赤岩　壁（2.5YR6/8）	
長石、石英、雲母 赤褐色粒、砂粒、小石	横ナデ、ハケ目	横ナデ、ケズリ	–	–	口縁部破片	口縁部外面煤付着	
長石、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	横ナデ、指頭痕 ハケ目後ナデ？ （摩耗の為調整不明瞭）	横ナデ、ケズリ	–	–	口縁部～胴部上位1/6 残存	内面煤付着	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	横ナデ、ハケ目後横ナデ ハケ目	横ナデ、ケズリ	–	–	屈部～胴部破片	外面煤付着	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	ナデ	回転ナデ	口縁部～底部1/2残存	内外面に漆膜、煤付着	
角閃石、雲母、砂粒	回転ナデ（摩耗）	回転ナデ（摩耗）	–	–	口縁部～体部残存	内外面に赤彩	
長石、石英、雲母 赤褐色粒	回転ナデ	–	ナデ	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	底部残存	高台付	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒	回転ナデ	–	ナデ	ミガキ（摩耗）	底部残存	高台付 黒色土器A類	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	回転ナデ	–	回転ナデ、ナデ	ミガキ（摩耗）	底部残存	黒色土器A類 高台付	12
石英、雲母、砂粒	回転ナデ（摩耗）	ミガキ （摩耗の為単位不明瞭）	–	–	口縁部破片	黒色土器A類	
長石、角閃石、雲母 赤褐色粒、砂粒	回転ナデ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部1/6残存	黒色土器A類	
長石、角閃石、砂粒	つまみ接合痕？ ヘラ切り離し後ナデ ヘラ切り離し後回転ヘラ ケズリ、回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	–	–	全体の1/3残存		
砂粒	ヘラ切り離し後回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ、ナデ	–	–	全体の1/6残存		

第５表　土器観察表

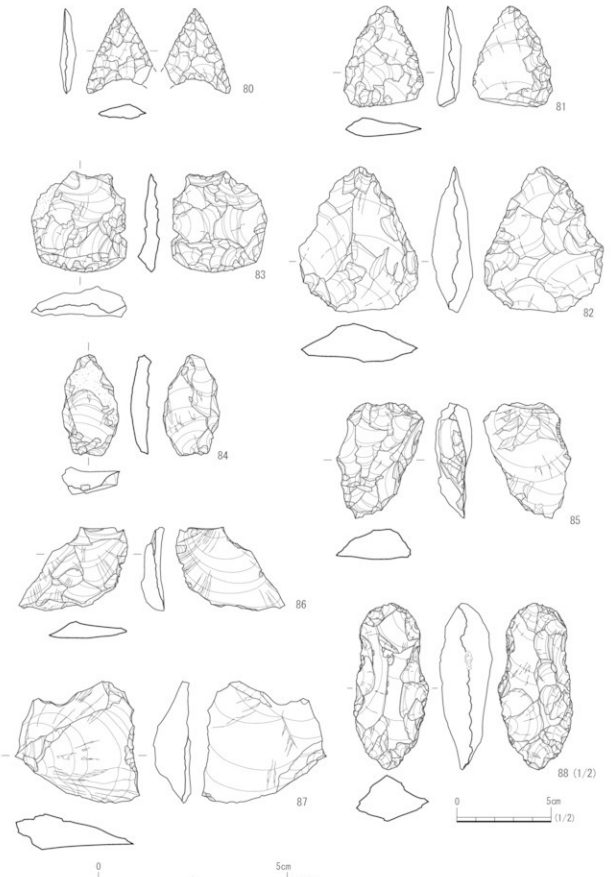
挿図番号	遺物番号	種別	器種	出土地点				法量（cm）			色調	
				グリッド	遺構	層位	取上げＮＯ	口径	底径	残存高	外面	内面
30	27	土師器	壺	V26	－	３層	－	(11.1)	－	(5.2)	にぶい橙（7.5YR6/4）	浅黄橙（10YR8/4）
	28	土師器	甕	V25	－	３層	－	－	－	(3.8)	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	29	土師器	甕	Y25	－	３層	－	－	－	(4.7)	にぶい橙（7.5YR6/4）	にぶい橙（7.5YR6/4）
	30	土師器	甕	Y25	－	３層	－	(28.6)	－	(6.6)	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	31	須恵器	甕	T25	－	３層	－	(19.7)	－	(9.4)	灰オリーブ（5Y6/2）	灰黄（2.5Y6/2）
31	32	土師器	高盤？	－	調査区	－	－	－	高台径（11.2）	(3.7)	橙（5YR6/6）	橙（7.5YR7/6）
	33	土師器	甕	－	調査区	－	－	(11.9)	－	(5.6)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	34	土師器	壺	－	調査区	２層 一括	－	(16.2)	－	(6.5)	にぶい黄橙（10YR7/4） にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR7/4） にぶい褐（7.5YR5/4）
	35	土師器	甕	－	調査区	一括	－	－	－	(2.0)	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）
32	36	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(3.7)	にぶい黄橙（10YR5/4）	橙（7.5YR6/6）
	37	縄文土器	深鉢	－	調査区	２層	－	－	－	(5.7)	灰黄褐（10YR4/2）	にぶい黄橙（10YR6/3）
	38	縄文土器	深鉢	－	調査区	－	－	－	－	(8.2)	にぶい黄橙（10YR4/3）	橙（5YR6/6）
	39	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(4.5)	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	40	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(6.6)	にぶい黄橙（10YR5/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	41	縄文土器	深鉢	－	調査区	1.4層	－	(24.0)	－	(5.0)	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	42	縄文土器	深鉢	T25	－	５層	－	(22.2)	－	(19.3)	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	43	縄文土器	深鉢	V26	－	３層 一括	－	(43.4)	－	(22.7)	明黄褐（10YR6/6）	にぶい黄（2.5Y6/3）
33	44	縄文土器	深鉢	－	調査区	Tr一括	－	－	－	(4.9)	褐（7.5YR4/3）	にぶい褐（7.5YR5/4）
	45	縄文土器	深鉢	V26	－	３層	－	－	－	(5.1)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	46	縄文土器	深鉢	V26	－	３層	－	－	－	(9.1)	にぶい黄橙（10YR6/3） 黒（10YR1.7/1）	灰黄褐（10YR4/2）
	47	縄文土器	深鉢	Y25	－	３層	－	－	－	(10.9)	にぶい赤褐（5YR4/4） 黒（7.5YR2/1）	にぶい赤褐（5YR4/4） 黒（7.5YR2/1）
	48	縄文土器	浅鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(2.4)	褐灰（10YR4/1）	黒褐（10YR3/1）
	49	縄文土器	浅鉢	－	調査区	ベルト一括	－	－	－	(2.4)	暗灰黄（2.5Y5/2）	黄灰（2.5Y4/1）
	50	縄文土器	浅鉢	－	調査区	２層	－	－	－	(2.4)	灰黄褐（10YR5/2）	灰黄褐（10YR4/2）
	51	縄文土器	浅鉢	－	調査区	１層	－	－	－	(3.4)	褐灰（10YR5/1）	にぶい黄橙（10YR6/3）
	52	縄文土器	浅鉢	W28	－	３層	－	－	－	(3.4)	にぶい黄橙（10YR7/3）	橙（7.5YR7/6）

胎土	調整				残存状況	備考	図版番号
	外器面	内器面	外底面	内底面			
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒	回転ナデ	回転ナデ	−	−	口縁部～胴部 1/5 残存	外面煤付着	12
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	横ナデ	横ナデ	−	−	口縁部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	ハケメ 回転ナデ後一部ハケ目	ハケ目後横ナデ ケズリ	−	−	口縁部～胴部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	横ナデ、ハケ目後横ナデ ハケ目後ナデ	横ナデ、ハケ目 ケズリ	−	−	口縁部～胴部 1/6 残存		
長石、石英、砂粒	回転ナデ、格子目タタキ	回転ナデ 同心円当て具痕	−	−	口縁部～胴部 1/4 残存	口縁部外面に自然釉	
雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	回転ナデ？	−	回転ナデ？ （摩耗の為調整不明）	摩耗の為調整不明	底部 1/4 残存		
長石、石英、角閃石 赤褐色粒	回転ナデ	回転ナデ	−	−	口縁部～胴部 1/4 残存	内外面に煤付着	
角閃石、雲母 赤褐色粒、砂粒	横ナデ、ハケ目後横ナデ （摩耗）、ハケ目	ハケ目後横ナデ ハケ目	−	−	口縁部 1/4 残存	内外面に赤彩？	
石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	横ナデ	横ナデ、ハケ目後横 ナデ　ハケ目	−	−	口縁部破片		
長石、石英、雲母 赤褐色粒、砂粒	ナデ、条痕	ナデ	−	−	口縁部破片	縄文早期	13
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ	ナデ	−	−	口縁部破片	縄文早期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ、条痕	ナデ	−	−	口縁部破片	縄文早期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	ナデ、条痕	ナデ	−	−	口縁部破片	縄文早期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	ナデ、条痕	ナデ	−	−	口縁部破片	縄文早期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	ナデ、条痕後ナデ、条痕	条痕後ナデ、ナデ 指頭痕	−	−	口縁部～胴部 1/6 残存	胴部外面に煤付着 縄文早期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	ナデ、条痕、貼付隆起文	ナデ、条痕	−	−	口縁部破片	轟式　縄文前期	16
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	刻目平行隆帯、垂下隆帯	条痕後ナデ	−	−	口縁部付近？破片	轟B式？ 刻目平行隆帯の間に 四条の垂下隆帯、その左右 に連続刺突文を施している	
長石、石英、角閃石 砂粒	条痕後ナデ	条痕	−	−	口縁部破片	口縁部外面に細帯隆起文 轟式　縄文前期	
長石、石英、角閃石 砂粒	ナデ、刻み目、曲線文 斜線文	ナデ、曲線文、斜線文	−	−	口縁部破片	轟式？　波状口縁 口唇に刻み目	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒	ミガキ	ミガキ	−	−	口縁部破片	口縁部外面に沈線？ 縄文後～晩期	14
長石、石英、角閃石 雲母、砂粒	ミガキ	ミガキ	−	−	口縁部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒	横ナデ ミガキ（単位不明瞭）	横ナデ、ミガキ	−	−	口縁部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	−	−	口縁部破片	縄文後～晩期	
長石、角閃石、雲母 砂粒	ミガキ	ミガキ	−	−	口縁部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	

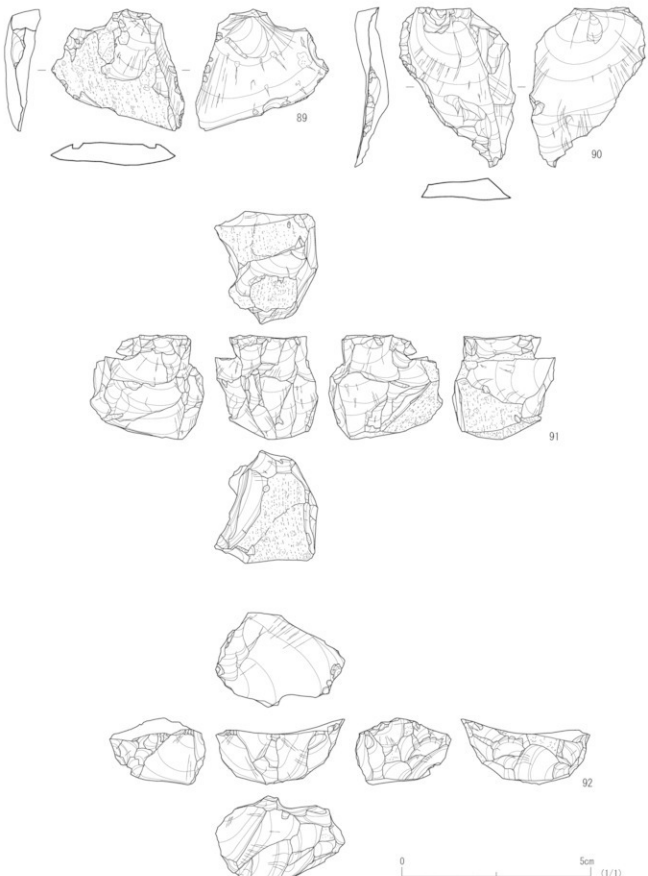
第６表　土器観察表

挿図番号	遺物番号	種別	器種	出土地点				法量（cm）			色調	
				グリッド	遺構	層位	取上げＮＯ	口径	底径	残存高	外面	内面
33	53	縄文土器	浅鉢	V26	－	３層	－	－	－	(2.5)	黄灰（2.5Y4/1）	黒褐（2.5Y3/1）
	54	縄文土器	浅鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(5.1)	にぶい黄橙（10YR7/3）	黒褐（10YR3/2）
	55	縄文土器	浅鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(5.1)	橙（5YR6/6） にぶい橙（7.5YR6/4）	褐灰（10YR4/1）
	56	縄文土器	浅鉢	－	調査区	1.2層	－	－	－	(4.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	黄灰（2.5Y4/1）
34	57	縄文土器	浅鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(3.6)	黒褐（7.5YR3/1）	黒褐（7.5YR3/1）
	58	縄文土器	浅鉢	W27	－	表土 ３層	－	－	－	(7.3)	黒褐（10YR3/1） にぶい黄橙（10YR5/3）	灰黄褐（10YR5/2）
	59	縄文土器	浅鉢	T25	－	３層	－	(30.4)	－	(6.7)	浅黄（2.5Y7/3） 灰（5Y4/1）	浅黄（2.5Y7/3） 灰（5Y4/1）
	60	縄文土器	浅鉢	W27	－	5.6層	－	(43.2)	－	(11.0)	橙（5YR6/6） にぶい橙（7.5YR5/3）	にぶい橙（7.5YR5/3） 橙（7.5YR4/3）
	61	縄文土器	浅鉢	－	調査区	1.2.4.5層 一括	－	(50.6)	－	(3.7)	にぶい黄橙（10YR7/3） 黒褐（10YR3/1）	にぶい黄橙（10YR7/3） 黒褐（10YR3/1）
	62	縄文土器	深鉢	－	調査区	1層	－	－	－	(3.5)	明褐（7.5YR5/6）	にぶい黄橙（10YR4/3）
	63	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(4.4)	にぶい赤褐（5YR4/3）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	64	縄文土器	深鉢	－	調査区	1層 一括	－	－	－	(3.6)	褐灰（7.5YR4/1）	黒褐（7.5YR3/2）
	65	縄文土器	深鉢	V27	－	３層	－	－	－	(4.8)	にぶい褐（7.5YR5/4）	にぶい黄橙（10YR6/3）
	66	縄文土器	深鉢	－	調査区	4.5層	－	－	－	(6.6)	橙（7.5YR6/6）	灰黄褐（10YR5/2）
35	67	縄文土器	深鉢	－	－	一括	－	－	－	(3.5)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	68	縄文土器	深鉢	－	調査区	4層～７層	－	－	－	(6.9)	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	69	縄文土器	深鉢	－	調査区	４～７層 一括	－	－	－	(10.1)	黒褐（10YR3/2）	にぶい黄橙（10YR6/4）
	70	縄文土器	深鉢	V27	－	1.3層	－	－	－	(5.4)	灰黄褐（10YR4/2）	黒褐（10YR3/2）
	71	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	－	(5.6)	にぶい黄橙（10YR7/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	72	縄文土器	深鉢	U24	－	３層 一括	－	－	－	(11.0)	にぶい黄橙（10YR7/3） 褐灰（10YR4/1）	黄灰（2.5Y4/1）
	73	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	(27.7)	－	(7.6)	明褐（7.5YR5/6）	にぶい黄橙（10YR5/4）
	74	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	(10.0)	－	(2.4)	明黄褐（10YR6/6）	明黄褐（10YR6/6）
	75	縄文土器	深鉢	－	調査区	4.5層	－	－	(9.6)	(4.1)	にぶい黄橙（10YR6/3）	にぶい黄橙（10YR7/3）
	76	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	(12.2)	(3.4)	橙（7.5YR7/6）	橙（7.5YR7/6）
	77	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	9.4	(2.9)	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/3）
	78	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	(10.8)	(1.6)	にぶい黄橙（10YR6/4）	にぶい黄橙（10YR7/4）
	79	縄文土器	深鉢	－	調査区	一括	－	－	(6.8)	(4.0)	橙（7.5YR6/6）	にぶい黄橙（10YR6/4）

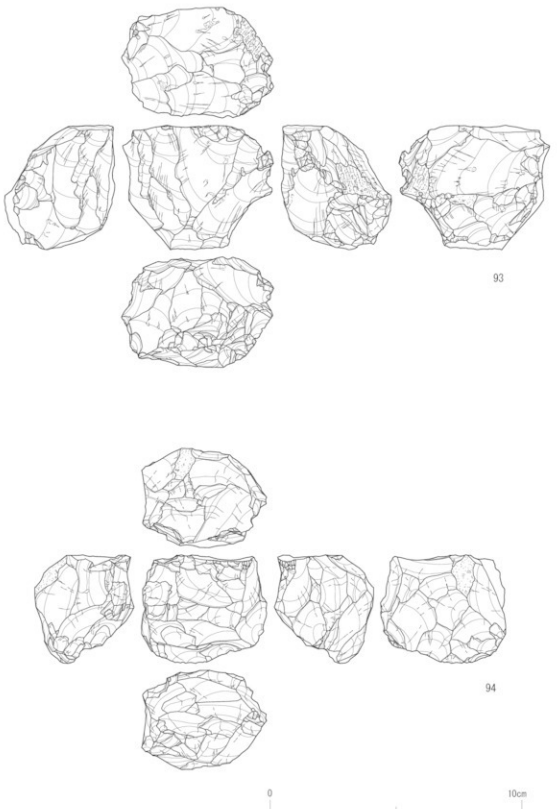
胎土	調整				残存状況	備考	図版番号
	外器面	内器面	外底面	内底面			
長石、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部破片	口縁部外面に沈線？ 縄文後～晩期	
長石、角閃石、雲母 赤褐色粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部破片	口縁部外面に沈線？ 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	胴部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ （摩耗の為単位不明瞭）	–	–	口縁部破片	口縁部外面に沈線？ 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部1/5残存 (口縁部は僅かに在)	縄文後～晩期	14
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部1/7残存	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部1/7残存	口縁部外面に沈線	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ、条痕か？	ナデ	–	–	口縁部破片		
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ナデ、条痕	ナデ	–	–	口縁部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部破片	外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部破片	口縁部外面に沈線	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	–	–	口縁部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	条痕後ミガキ	–	–	口縁部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒 小石	ミガキ、工具痕？	ミガキ、工具ナデ	–	–	口縁部～胴部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	15
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	横ナデ	横ナデ、ミガキ	–	–	口縁部～胴部破片	外面沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	ミガキ	ミガキ	–	–	口縁部～胴部破片	口縁部外面に沈線 縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	横ナデ、条痕後ナデ	ナデ	–	–	口縁部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 砂粒	条痕後ナデ	条痕後ナデ	–	–	胴部破片	縄文後～晩期	
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒、小石	ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	–	–	口縁部～胴部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	–	–	ナデ	ナデ	底部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	–	–	ナデ	ナデ	底部1/3残存		
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	–	–	ミガキ、ナデ	ナデ	底部破片		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒 砂粒、小石	–	–	ナデ	ナデ	底部残存	内面煤付着	16
長石、石英、角閃石 赤褐色粒、砂粒	–	–	ナデ、工具ナデ	ナデ	底部1/3残存		
長石、石英、角閃石 雲母、赤褐色粒、砂粒	–	–	ナデ	条痕後ナデ	底部破片		



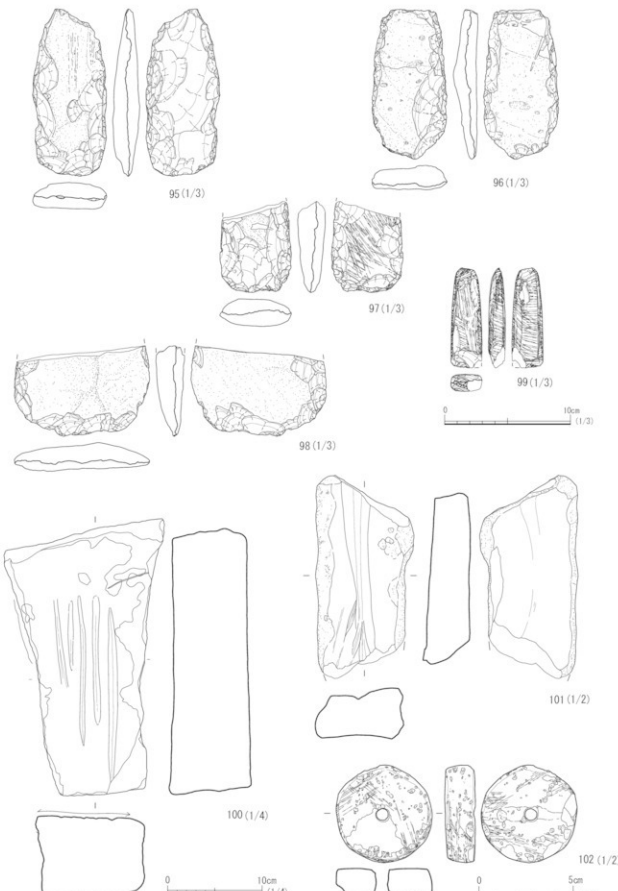
第 36 図　調査区出土遺物実測図 -6-



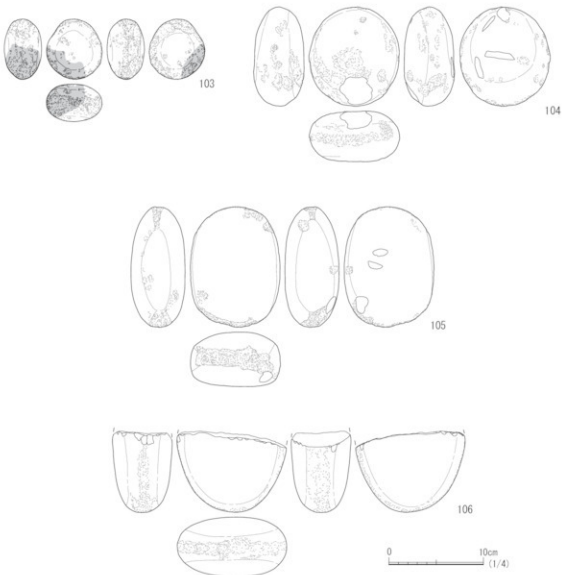
第 37 図　調査区出土遺物実測図 -7-



第 38 図　調査区出土遺物実測図 -8-



第 39 図　調査区出土遺物実測図 -9-



第 40 図　調査区出土遺物実測図 -10-

第７表　石器観察表

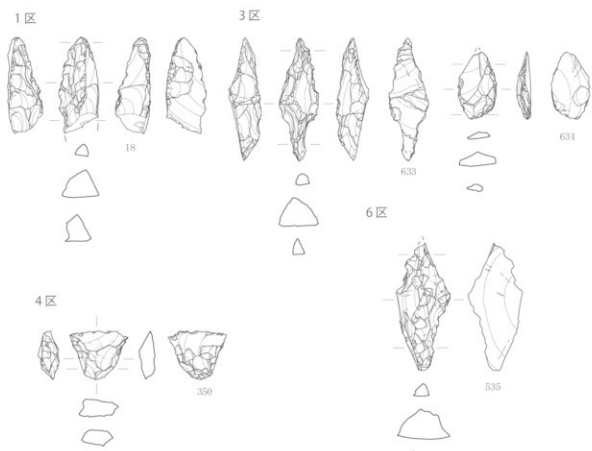
挿図NO	図版NO	遺物NO	器種	石材	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	層位	備考
36	17	80	打製石鏃	黒曜石	2.23	1.74	0.42	1.00	Ⅳ-27 5層	右脚部欠損 抉りは広く浅い
		81	尖頭器	チャート	2.65	2.10	0.62	2.80	①層	寸詰まりな縦長剥片を素材とする 主に左右の縁辺部に調整を施している 素材の剥離面が表面及び裏面に広く残る
		82	尖頭器	チャート	3.84	3.17	1.12	10.48	⑥Ⅶ層	寸詰まりな縦長剥片を素材とし縁辺に 調整を施している 素材の剥離面が裏面先端部に残る
		83	楔形石器	黒曜石	2.68	2.52	0.79	4.00	下層	表面に自然面が残る。特に裏面側に左右・ 上下両極方向からの剥離面を顕著に残す
		84	楔形石器	黒曜石	2.67	1.48	0.70	2.30	⑥Ⅶ層	表面に自然面が残る 上下両端部の稜線は潰れており微細 剥離が観察される
		85	二次加工ある剥片	黒曜石	3.02	2.32	0.94	5.40	トレンチ一括	表面の左右縁辺に連続的な剥離が施される 裏面右側面には微細剥離が観察される
		86	二次加工ある剥片	黒曜石	2.18	2.88	0.61	2.50	一括	表面下端に自然面が残る 右側縁にわずかに二次加工痕が残る
		87	二次加工ある剥片	珪質頁岩	3.18	3.28	0.99	7.90	南北ベルト一括	右側縁に緩かい剥離が施される やや幅広の不定形な剥片
		88	二次加工ある剥片	安山岩	8.78	3.97	2.78	79.00	①層	裏面に素材の剥離面が残る 緩かく連続した剥離により抉りが施される 厚みがかなり残ることから製品ではなく 何らかの未成品か
37		89	二次加工ある剥片	黒曜石	3.20	3.52	0.79	7.00	U-26 3層（黒ボク）	表面に自然面が残る 右側縁は緩かく連続した剥離 左側縁は大きさの不揃いな剥離が残る
		90	二次加工ある剥片	黒曜石	4.20	3.08	0.90	5.90	U-26 3層（黒ボク）	左側縁に連続した剥離面が残る 表面の剥離面からこの遺物と同様の 剥片を得ている
		91	石核	黒曜石	2.73	2.71	3.00	21.60	東西ベルト一括	自然面の残存状況から角礫を母岩とする ヒンジフラクチャーが各面に見られる
		92	石核	黒曜石	1.73	3.40	2.48	10.80	U-24 3層（黒ボク）	打面は剥片のポジ面であるがバルブは残存しない 目的剥片を剥離し得るだけの作業面を持ち合わ せておらず残核の様相を呈する
46		93	石核	黒曜石	4.92	6.03	4.39	128.50	T-25 3層（黒ボク）	打面に自然面が残る 打面はかつての作業面で複数の剥離痕が残る 目的剥片はやや幅のある縦長剥片
		94	石核	凝灰岩	4.28	4.96	3.93	97.40	Ⅳ-26 3層（黒ボク）	表面に残る剥離から180度打面転移が 行なわれている 裏面側に部分的に自然面が残る
38		95	打製石斧	安山岩	13.34	5.90	2.15	203.00	①層	表面に自然面が残存する 表面器部付近に線条痕が観察される
		96	打製石斧	安山岩	11.91	5.98	1.90	146.00	Ⅴ-26 3層（黒ボク）	刃部調整は僅かで左右縁辺に調整剥離が施される 表裏面とも広く自然面が残る
		97	打製石斧	安山岩	7.29	5.72	2.22	107.00	U-25 3層（黒ボク）	基部欠損 表裏面とも自然面が残る 裏面には自然面部分に擦痕が観察される
		98	打製石斧	安山岩	7.25	10.86	2.30	183.00	①層	基部欠損 表裏面とも自然面が残る 調整剥離は刃部から左側面にかけて観察される
		99	磨製石斧	頁岩	8.00	2.52	1.35	45.00	②層	刃部を一部欠損する。全体を研磨
		100	砥石	砂岩	29.20	17.00	8.70	5600.00	一括	表面に顕著な研磨痕及び溝状の使用痕が観察さ れる。裏面は研磨痕が部分的に観察される
		101	砥石	砂岩	10.72	5.21	2.82	213.00	②層	側縁部は自然面 表裏面とも砥石としての使用痕が顕著に残る 表面には溝状の使用痕が残存する
		102	紡錘車	安山岩	5.15	5.10	1.62	35.50	U-24G 3層	部分的に欠損する。中央部に穿孔あり 全体を研磨しているが部分的に研磨方 向が目視できる
39		103	磨・敲石	安山岩	6.38	5.93	3.95	196.00	トレンチ一括	縁辺部に敲打痕あり。表裏平坦部に磨面あり 赤色顔料の付着が観察される
		104	磨・敲石	安山岩	10.50	9.56	5.38	567.00	①層	全面に磨面あり 部分的に敲打痕あり
		105	敲石	安山岩	12.70	9.50	5.75	1038.00	⑥Ⅶ層	上下両端部に敲打痕あり
		106	磨・敲石	砂岩	8.60	11.55	6.27	826.00	⑥Ⅶ層	欠損あり。　縁辺部に敲打痕あり 表裏平坦部に磨面あり

第Ⅳ章　総括

第 1 節　1，3 ～ 5，6 区の調査成果

1　旧石器時代

旧石器時代の遺物は，三稜尖頭器 2 点とナイフ形石器 1 点が出土している。3 区で出土した三稜尖頭器 (633)，ナイフ形石器 (634) は，ともに安山岩製である。両者の石質は異なり，前者は縞状の流理が顕著にみられやや多孔質で淡灰褐色を呈するのに対し，後者は緻密で黒色を呈し比較的良質の石材である。前者は，阿蘇周辺の遺跡で顕著に認められる在地産石材であり，後者は西北九州産の可能性が指摘でき，1 区で出土した三稜尖頭器 (18) が，挟雑物を含まずやや透明感の少ない黒曜石製で西北九州産と考えられることと合致する。三稜尖頭器の形態的特徴は，18 が裏面側と稜上からの加工による一面加工であるのに対して，633 は素材剥片の形状に起因するものと考えられるが，左右両側縁に裏面側からの加工が施され，稜上からの加工は認められない。ナイフ形石器 (634) は，幅広の横長剥片を素材とする。表裏両面に残る剥離面から，打面を頻繁に転移しながら？出する多面体を呈する石核が想定されよう。左刃をなす二側縁加工のナイフ形石器で，先端部の刃角はやや大きい。4 区ではチャート製の台形様石器が出土している。厚みのある幅広剥片を素材とし，打点部を左側に置き，平坦剥離によって打瘤部を除去している。左右両側縁に裏面側からの加工を施し，全体形状は撥型を呈する。刃部は直線的で，使用痕と考えられる小剥離痕が認められる。6 区では，珪質頁岩製の三稜尖頭器が出土している。横長剥片を素材とし，右側縁裏面側と稜上からの加工による一面加工である。左側縁先端部よりには，鋸歯状を呈する粗い加工痕が認められリダクションの可能性が考えられる。これらの遺物の出土層位は，後世の遺構や包含層であり，本来の出土層位を留めず 1，3 ～ 5 区と 6 区に散在し面的な広がりとまと



第 41 図 1，3 ～ 5，6 区の旧石器時代の遺物

まりは認められない。出土した石器の形態的特徴や石材利用の在り方から，後期旧石器時代後半期に位置づけられるものと考えられ，狩猟用具のみの出土ではあるが，当該期の活動域の一端を示すものといえる。

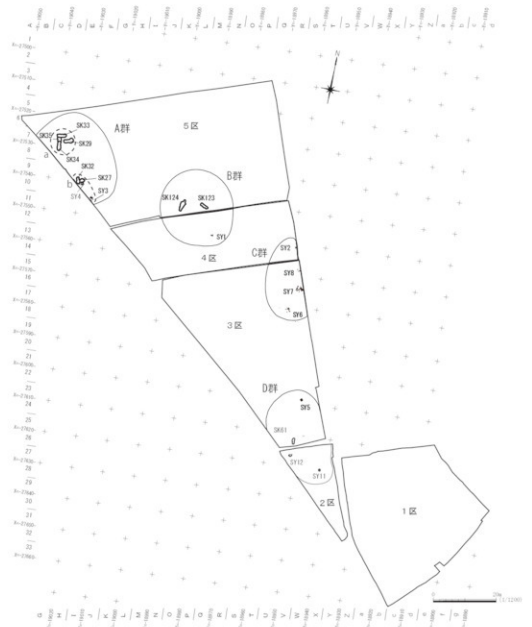
2　縄文時代

当該期の遺構，遺物は，1，3～5，6区全域で確認された。その所属時期は，早期及び後期後半から晩期前半の2時期に分けられる。

1) 早期の様相

早期については，2区と3区東側，4区全域，5区の南側に集中し，炉穴11基，集石10基の遺構と，貝殻文系円筒形条痕文土器や塞ノ神式土器，轟A式土器などの土器群が石器群とともに検出された。

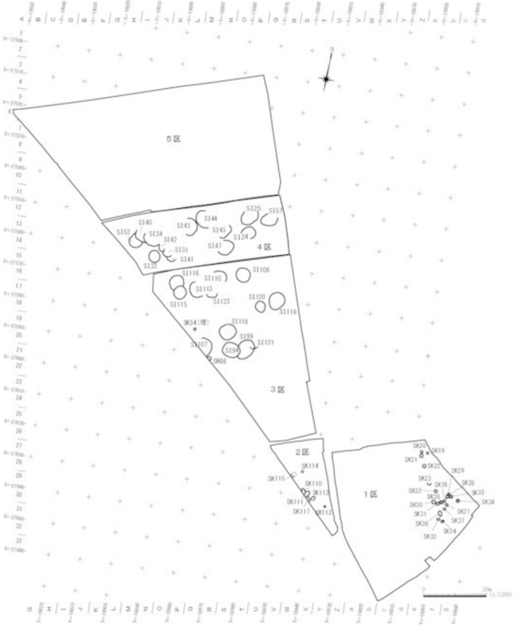
集石は，SY11,12を除く他の8基では掘り込みを持たないが，火熱を受けたと推定され，表面が赤変した拳大の円礫，角礫で構成される。3区北東側で検出されたSY6からは，轟A式土器の胴部破片



第42図　1～5区遺構配置図(1/1200) 縄文時代-早期-

が伴出し，当該遺構の時間的位置づけを行う上で重要な資料を提供している。

炉穴の形状は長楕円形を呈し，確認面からの深度は浅い。中央部に焼土のまとまりが認められ，その前後で棚状の平坦面と土坑状の最深部に分かれており，この形態的特徴は９基とも共通する。本来の掘り込み面は，さらに上位に位置するものと判断できることから，焼土集中部を焚口とする連結土坑である可能性が指摘でき，焼土集中部の上部はトンネル状であった蓋然性が高い。これらの炉穴から検出された遺物は少なく，SK32，34でそれぞれ貝殻文系円筒形条痕文土器が１点ずつ確認されているだけである。しかし，残念ながら埋土中の炭化物について，年代測定等の理科学的な分析がなされておらず，当該遺構の詳細な年代について明らかにすることができていない。包含層から出土する土器型式が貝殻文系土器のみであり，遺構検出面のレベル差では炉穴が集石より50～60㎝低いが，炉穴の上部が削平されていることから時間的にはさほど差はないものと理解されよう。



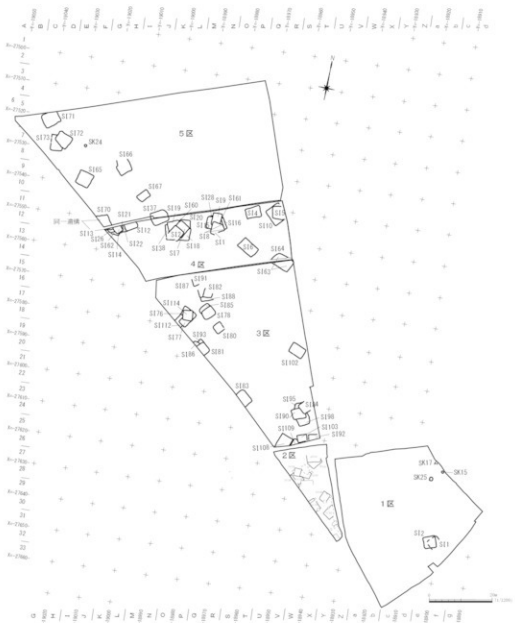
第43図　1～5区遺構配置図(1/1200)-縄文時代-

これらのことから当該期の塔平遺跡３～５区は，貝殻文系円筒形条痕文土器や塞ノ神式土器，轟Ａ式土器の時期に位置づけられ，炉穴や掘り込みを持たない集石を伴うものと理解される。また，SK35 を SK33 と SK34 が，SK27 を SK32 が切っており，これらの切り合い関係から一定期間存続したことが想定される。

これらの遺構分布の在り方は，大まかに北側からＡ～Ｄ群の４群にまとまり，Ａ群及びＤ群ではさらにａ，ｂの２つの小群に細分される。これらの遺構群は炉穴と集石で構成され５区から２区に広く分布する。その在り方は，北西～南東にかけて西側に閉じる弧状に分布する様相が窺える。この分布の在り方は，当該地の地形に即した在り方を示しているものと理解され，調査区外西側に居住域が広がるものと推定される。

2) 後晩期の様相

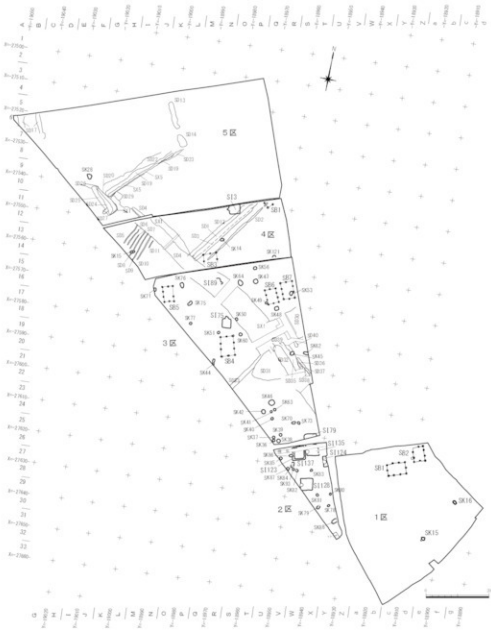
後晩期については，３，４区で竪穴建物跡が26軒，土坑６基が検出された。土坑のうち５基は土器埋設遺構である。これらの遺構は，３区の北半と４区



第44図　1～5区遺構配置図(1/1200)-弥生時代-

全域に分布する。検出された竪穴建物跡はいずれも円形もしくは楕円形を呈する。これらの中には，柱穴が検出できるものとできないものとがあった。これは地山と覆土の色調との差が不明瞭であり，かなり掘り下げて検出されたためである。したがって当該期の竪穴建物跡が検出されなかった５区についても全域が削平され，なお且つ遺構の掘削深度が浅く残存し得なかった可能性も考えられる。

竪穴建物跡には，① SI52 → SI40 → SI34，② SI42 → SI31 ← SI41，③ SI116 → SI115，④ SI99 → SI94 の４例の切り合い関係が認められ，最大３軒の竪穴建物跡の切り合い関係が認められた。また，土器埋設遺構 SK52,59 は竪穴建物跡の集中するエリアからは離れて存在しており，竪穴建物跡に近接した分布を示す土器埋設遺構 SK22,54,58 の在り方と対照的である。これらの遺構の在り方から，当該期の集落形成が数時期に細分される可能性を示しているものと考えられ，出土遺物の型式，組成や分布の在り方等の検討による集落景観の復元が重要であろう。遺構から出土した土器類は多くはないが，包



第45図　1～5区遺構配置図(1/1200)-古代以降-

含層出土の遺物から概観する。

出土した土器群は，黒色磨研土器様式の古閑式，黒川式に比定される。このように当該遺跡では，検出される土器型式が古閑式～黒川式にまとまることから，竪穴建物跡を含めた集落の存続期間は概ね晩期初頭～中葉に収まるものと考えられる。

なお，当該遺跡１，３～５区において組織痕土器が14点出土した。組織痕土器は，九州地方の縄文晩期に特徴的に認められ，①型自体に由来すると考えられる網代の圧痕，②型離れ材に由来すると考えられる編み布の圧痕，③型離れ材に由来すると考えられる網目の圧痕の３つに分類される（渡辺2006）。また，黒川式に編み布の圧痕が付いた土器がみられる（宮地2009）ことが指摘されている。当該遺跡で出土した組織痕土器は，①～③に該当する。

3　弥生時代

当該期の竪穴建物跡は，３～５区で確認された。これらの竪穴建物跡には，３区で① SI109 → SI103，② SI95,SI98 → SI90 → SI84，③ SI93 → SI86 → SI81，④ SI85 → SI78，⑤ SI112 → SI76 → SI77 → SI114，⑥ SI88 → SI87 → SI82 の６例，４区で⑦ SI10 → SI5，⑧ SI20 → SI18,SI19 → SI7 → SI2，⑨ SI62 → SI26,SI21 → SI13(70),SI22 → SI14，⑩ SI61 → SI28,SI62 → SI15,SI16 → SI9 → SI1 の４例，５区で⑪ SI73 → SI72 の１例の合計11例の切り合い関係が認められ，中には最大７軒の竪穴建物跡の切り合い関係が認められる事例もあった。これらの竪穴建物跡の覆土中から検出された遺物には，甕形土器や長頸壺を含む壺形土器，高坏形土器等の土器群と石斧や磨石・敲石等の石器類がある。遺物の中で，形態的特徴により時期的な変化が捉えやすい脚台付きの甕形土器の観察から，概ね後期前半～後半に位置づけられるものと考えられる。しかし，塔平遺跡で検出された当該期の竪穴建物跡は，後世の開墾や耕作によって壊され良好な遺存状態とは言い難く，さらに複数の遺構が重複することから遺構そのものの全体形や構造、包含する遺物など基本的な情報を滅失しているものも多い。

２区の調査において当該期の竪穴建物跡である可能性が考えられる方形の窪みが９ヶ所で確認された。これらの痕跡は，削平を受け深度は浅く白ニガ層まで及び硬化面は確認できていない。また，調査時に底面直上及び覆土中から遺物は出土せず，炉跡と考えられる焼土や炭化物の集中も認められない。しかも，当該調査区からの当該期の遺物の出土が稀

３区　完掘状況

少であること等の条件を考慮すれば，竪穴建物跡と認定することを躊躇せざるを得なかった。そのため，SI126，127，129 ～ 134，136 について図示せず報告を行わなかった。

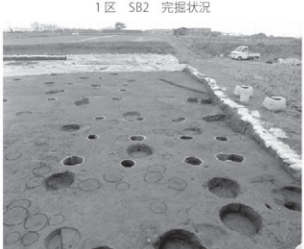
塔平遺跡から南西方向約１kmの位置に二子塚遺跡が所在する。二子塚遺跡は，中期後半の褒甕墓群が当該地に集落を伴わず出現し，後期前半の空白期を挟み，後期中葉に集落が形成される。その後，後期後半には環濠を廻らせる集落へと変遷する。

両遺跡は近接し，同一丘陵上に立地しており，両遺跡の関係性についてそれぞれの存続期間や集落景観の変遷など時間的な変化を検討することは重要であると考える。

4　古代

１～４区において，竈をもつ竪穴建物跡８軒，掘立柱建物跡７棟が検出された。竪穴建物跡の分布は，大まかに２区と３区北半～４区に区分される。掘立柱建物跡の分布も，１区と３区北半～４区南半に区分され大きくは異ならない。しかし，両者の遺構は切り合わず同時期に存在した可能性が高い。また，検出された掘立柱建物跡は全て２間×３間で共通する。SB2 ～ 7 の桁の方向は，N-16-W ～ N-23-W と偏差は小さい。唯一，桁の方向が違う SB1 は，近接する SB2 とほぼ直角に近い配置を示す。また，この傾向は竪穴建物跡にも認められることから，当該遺跡における竪穴建物跡，掘立柱建物跡の規格，配置には統一性が認められる。４～５区の竪穴建物で出土した土師器の長胴甕や鉢は，胴部の器壁も薄く，口縁部がやや斜め上方に向かって開くものであり，概ね９世紀初頭～９世紀中葉までの時期に収まるものと考えられる。

1区　SB2　完掘状況



3区　SB6　完掘状況

全景

【引用・参考文献】

野田　拓治　1982「古式土師器の成立と展開」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』

古庄　浩明　1989「中九州における古式土師器の成立 - 白川・緑川水系地域について -」『國學院大學考古学資料館紀要』5

島津義昭ほか編 1992『二子塚』熊本県文化財調査報告書第 117 集 熊本県教育委員会

古森政次編　1994『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告書第 144 集 熊本県教育委員会

原田　範昭　1999「中九州における弥生時代後期土器編年」『先史学・考古学論究』Ⅲ　龍田考古会

池田朋生編　2001『石の本遺跡群Ⅲ』熊本県文化財調査報告書第 194 集 熊本県教育委員会

稲田　孝司　2003「日本における旧石器時代住居遺構の批判的検討」『考古学研究』50-3

中里伸明編　2009『戸坂遺跡Ⅱ』熊本市教育委員会

水上公誠ほか編　2013『塔平遺跡 1』熊本県文化財調査報告書第 285 集 熊本県教育委員会

坂井田端志郎ほか編　2014『塔平遺跡 2』熊本県文化財調査報告書第 302 集　熊本県教育委員会

水上正孝編 2014『瀬田狐塚遺跡』熊本県文化財調査報告書第 296 集 熊本県教育委員会

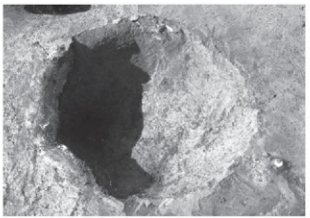
野田恒親・濱田彰久 1999『古閑北遺跡』 熊本県文化財調査報告書第 184 集 熊本県教育委員会

池田　朋生　1998「縄文時代前期末～中期初頭における土器の展開 ―中九州を中心として― 」『肥後考古』第 11 号　肥後考古学会

帆足　俊文　2003「熊本県の集積遺構と炉穴」『第 13 回九州縄文研究会 九州縄文時代の集積遺構と炉穴』九州縄文研究会

1980『古保山・古閑・天城』熊本県文化財調査報告書第集 熊本県教育委員会

写　真　図　版



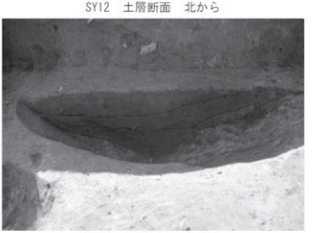
SY11　完掘状況　南東から

SY11　土層断面　東から

SY12　完掘状況　北西から

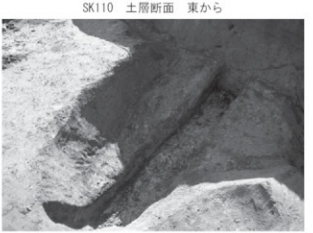
SY12　土層断面　北から

SK110　完掘状況　東から



SK110　土層断面　東から

SK111　完掘状況　東から

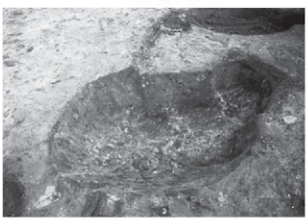


SK111　焼土範囲　東から

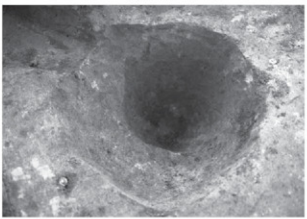
図版 2

SK111　土層断面　北から

SK112　完掘状況　北から



SK113　完掘状況　北西から



SK114　完掘状況　北東から

SK117　焼土範囲　東から

SK117　完掘状況及び土層断面　東から

SI123　カマド残存状況　東から

SI123　硬化面範囲検出状況　東から

SI124　完掘状況　北東から

SI124　カマド残存状況　東から

SI124　硬化面範囲検出状況　東から

SI128　カマド残存状況　東から

SI128　完掘状況　東から

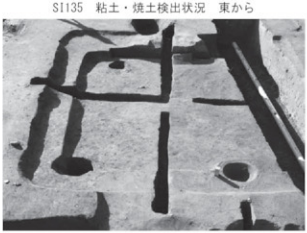
SI128　粘土範囲　東から

SI135　カマド残存状況　東から

SI135　完掘状況　東から

SI135　粘土・焼土検出状況　東から

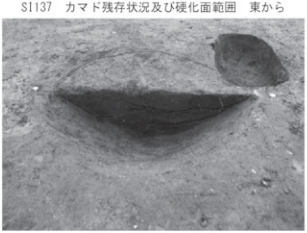
SI137　カマド残存状況　東から



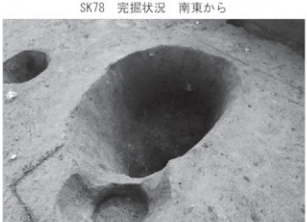
SI137　完掘状況　東から

SI137　カマド残存状況及び硬化面範囲　東から

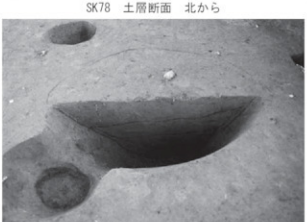
SK78　完掘状況　南東から



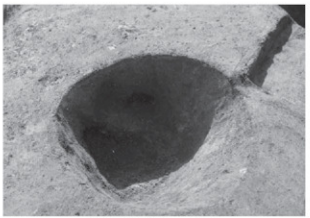
SK78　土層断面　北から



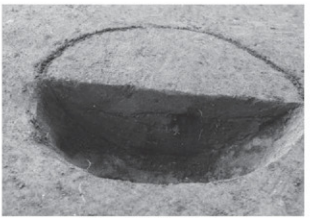
SK79　完掘状況　北から



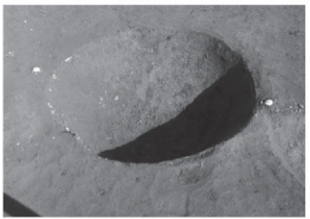
SK79　土層断面　北から



SK80　完掘状況　北から

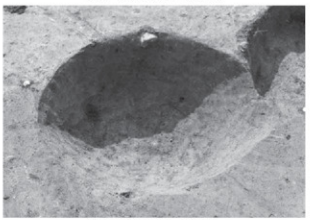


SK80　土層断面　西から



SK81　完掘状況　西から

SK81　土層断面　東から



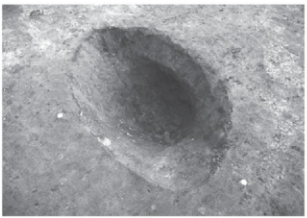
SK82　完掘状況　西から

SK82　土層断面　東から

SK83　土層断面　北から

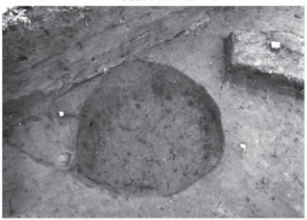
SK84　完掘状況　西から

SK84　土層断面　南から

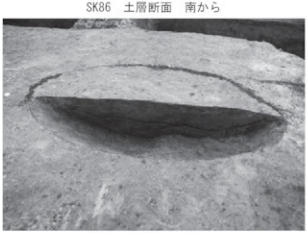


SK86　完掘状況　西から

SK86　土層断面　南から



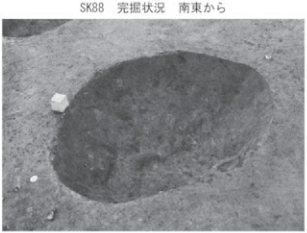
SK87　完掘状況　東から



SK87　土層断面　南から

SK88　完掘状況　南東から

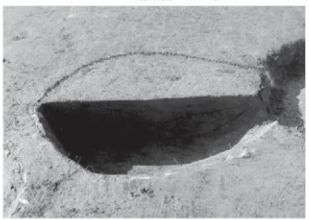
SK88　土層断面　北から



SK89　完掘状況　西から

SK89　土層断面　東から

SK90　完掘状況　東から



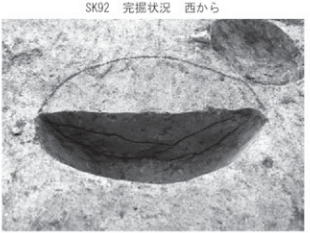
SK90　土層断面　東から

SK91　完掘状況　東から

SK91　土層断面　東から

SK92　完掘状況　西から

SK92　土層断面　東から

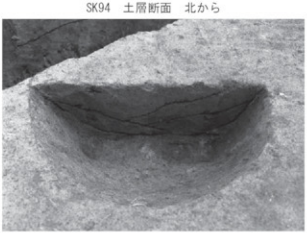


SK93　完掘状況　北から

SK94　完掘状況　北から

SK94　土層断面　北から

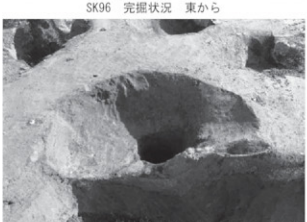
SK95　完掘状況　南東から



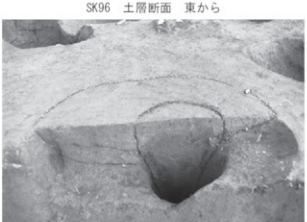
SK95　土層断面　南から

SK96　完掘状況　東から

SK96　土層断面　東から

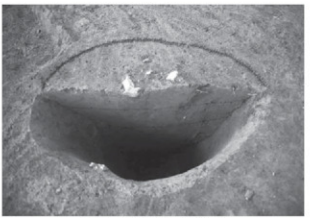


SK97　完掘状況　西から



SK97　土層断面　西から

SK98　完掘状況　東から



SK98　土層断面　北東から

SK99　完掘状況　北東から

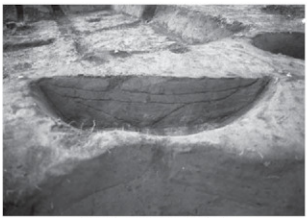
SK99　土層断面　東から

SK100　完掘状況　東から

SK100　土層断面　西から

SK101　土層断面　東から

SK102　完掘状況　北東から



SK102　土層断面　東から

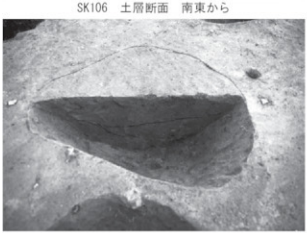
SK103　土層断面　東から

SK104　土層断面　東から

SK105　土層断面　東から

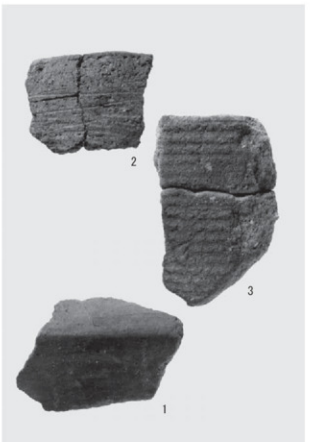
SK106　土層断面　南東から

SK107　土層断面　南から

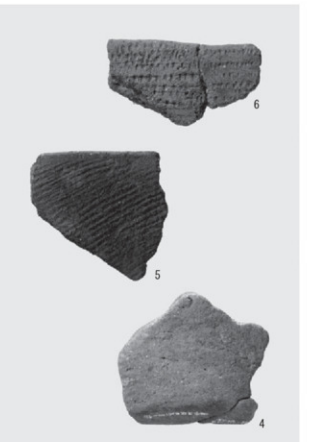


SK108　土層断面　西から

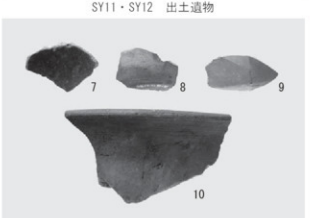
SK109　土層断面　南から



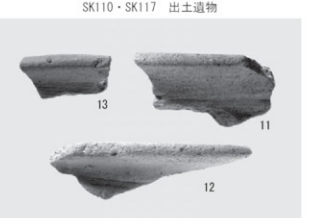
SY11・SY12　出土遺物



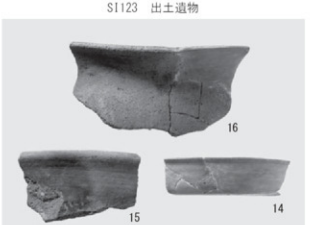
SK110・SK117　出土遺物



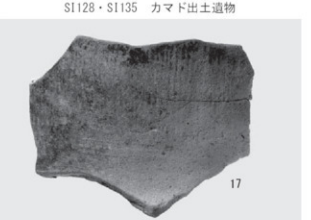
SI123　出土遺物



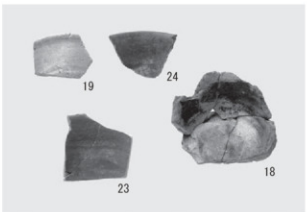
SI128・SI135　カマド出土遺物



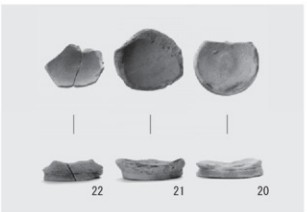
SI137　カマド出土遺物



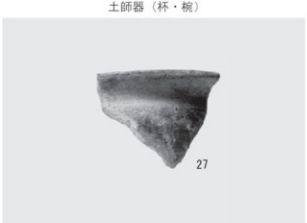
SK100　出土遺物



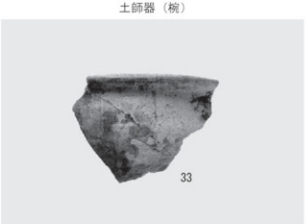
土師器（杯・椀）



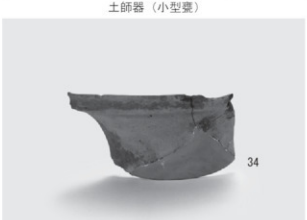
土師器（椀）



土師器（小型甕）

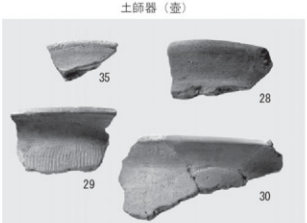


土師器（小型甕）



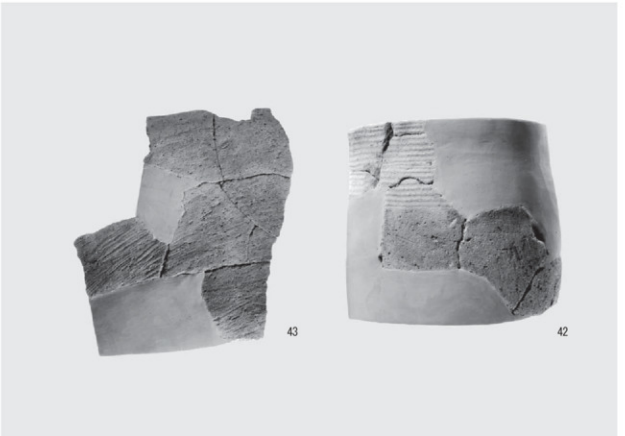
土師器（壺）

土師器（脚）

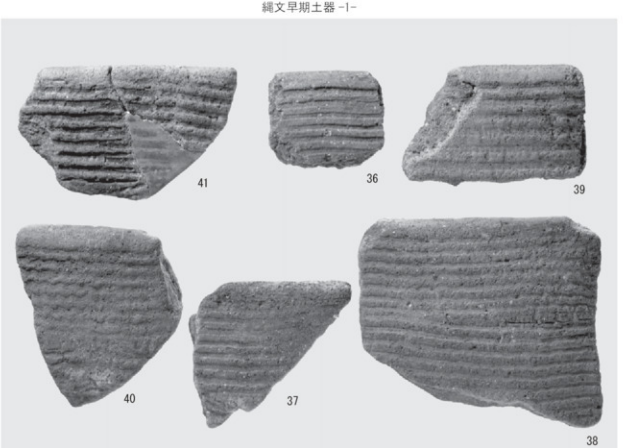


土師器（甕）

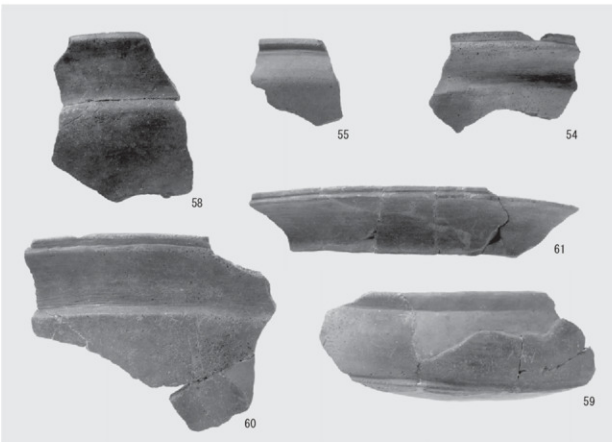
須恵器（蓋・甕）



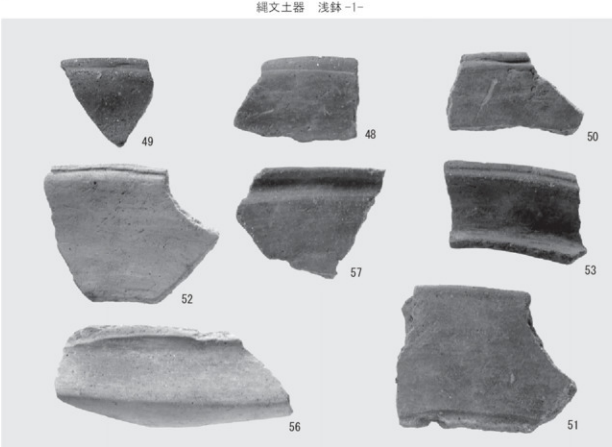
縄文早期土器 -1-



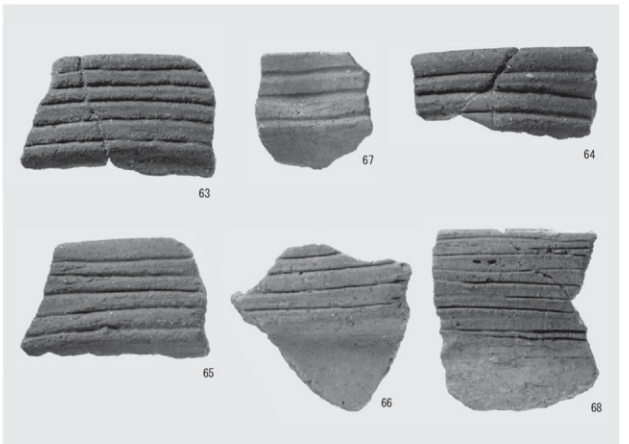
縄文早期土器 -2-



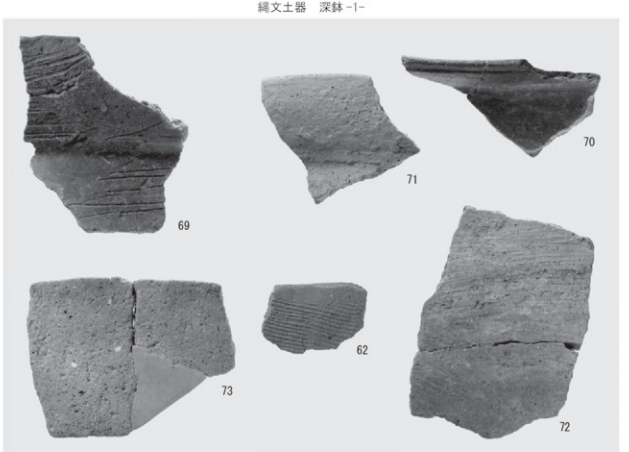
縄文土器　浅鉢 -1-



縄文土器　浅鉢 -2-

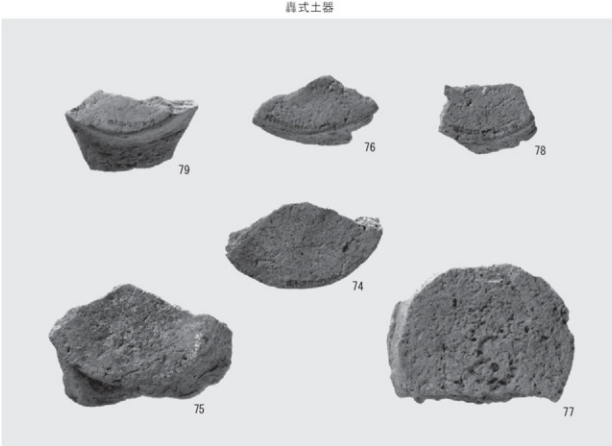


縄文土器　深鉢 -1-

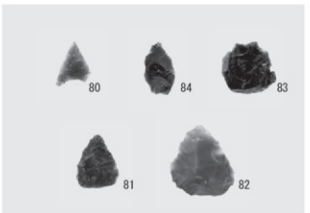


縄文土器　深鉢 -2-

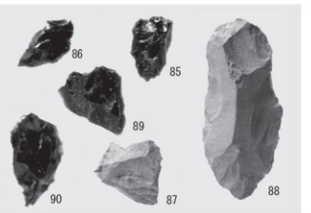
轟式土器



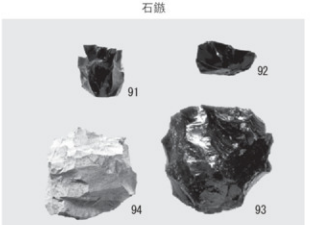
縄文土器－底部－



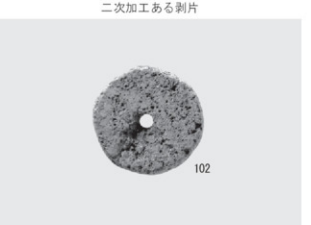
石鏃



二次加工ある剥片

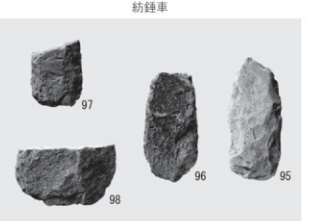


石核

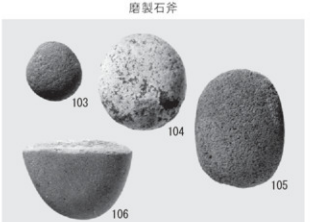


紡錘車

磨製石斧



打製石斧



磨・敲石

砥石

報 告 書 抄 録

ふりがな	とうのひらいせき
書　名	塔平遺跡３
副書名	国土交通省九州横断自動車道延岡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第310集
編著者	村﨑孝宏
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本市中央区水前寺６丁目18-1
発行年月日	2015年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
とうのひらいせき 塔平遺跡	くまもとけんみなみあそぐんますきまちおおあざついけ 熊本県上益城郡 益城町大字小池 おおあざつのひら 字塔平	443	045	32° 47′ 10″	130° 50′ 77″	2012.11.6 ～ 12.28	600㎡	九州横断自動車道延岡線建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塔平遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古　代	集石遺構 炉　穴 土　坑 竪穴建物跡	縄文土器 土師器 須恵器 石器類	

熊本県文化財調査報告第 310 集

塔平遺跡 3

発行年月日　平成 27 年 3 月 31 日

編　集　　熊本県教育委員会
発　行　　862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印　刷　　株式会社 河田印刷
製　本　　861-4101　熊本県熊本市南区近見 8 丁目 5-105

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 310 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：塔平遺跡 3
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2016 年 9 月 21 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。
熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/